

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北陸大学
設置者名	学校法人北陸大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
薬学部	薬学科				64.5	64.5	19	
経済経営学部	マネジメント学科				125	125	13	
	経済学科				50	50	13	
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科				71	71	13	
	心理社会学科				66	66	13	
医療保健学部	医療技術学科				105	105	13	
	理学療法学科				78	78	13	
(備考)								
・薬学部：1、2年次生は新課程、3～6年次は現課程								
・経済経営学部マネジメント学科：1、2年次は新課程、3、4年次は現課程								
・経済経営学部経済学科：2024年度開設								
・医療保健学部医療技術学科：1～3年次は新課程、4年次は現課程								
・医療保健学部理学療法学科：2023年度開設								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html 「実務経験のある教員による授業科目一覧」から確認

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北陸大学
設置者名	学校法人北陸大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025年6月11日定 時評議員会終結後 から2029年定時評 議員会終結時まで	組織運営体制のチ ェック機能
非常勤	会社役員	2025年6月11日定 時評議員会終結後 から2029年定時評 議員会終結時まで	組織運営体制のチ ェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北陸大学
設置者名	学校法人北陸大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

- | |
|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 |
|---|

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

【薬学部】

- ・学部教授会で「2025薬学部シラバス作成指針」配布
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認後、提出
 - ・作成指針に基づき第三者チェック（各系主任教員、副主任教員、主任教員が指名する2～3人の教員で編成された原稿確認チームが中心となり原稿内容の確認、修正に関する助言並びに項目間の調整を行う。選択科目については当該分野の教務委員が確認。また語学科目についても教務委員が確認する。）
 - ・第三者チェック後、担当教員が修正等を行い、主任教員に再度提出。主任教員がチェック内容の最終確認を行い、シラバスが確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
ナンバリング
配当学年
開講期
必修・選択
単位数
担当教員名
講義・演習・実習
所属
授業の目的と概要
実務経験のある教員による授業科目
学修の目標、学習の目標、到達目標
授業方法
成績評価方法
準備学習（予習・復習等）
受講生への指示
他科目との関連
教科書
参考書
授業計画
キーワード

【経済経営学部 マネジメント学科】

- ・学部教授会で「2025 年度経済経営学部シラバス作成指針」を決定
 - ・シラバス作成の学部 FD 研修会の動画配信
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認
 - ・2 月教授会終了後、作成指針に基づき相互チェック〔第三者による点検〕
 - ・担当教員による修正等を行い、シラバスを確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
ナンバリングコード
配当年次
開講期
授業方法分類
科目分類
単位数
担当教員名
所属
授業の目的と概要
到達目標
準備学習（予習・復習等）
授業方法
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】
評価項目の具体的内容
実務経験のある教員による授業科目
履修条件・受講生へのアドバイス
他の科目との関連
教科書
参考書・参考文献
授業計画

【経済経営学部 経済学科】

- ・学部教授会で「2025 年度経済経営学部シラバス作成指針」を決定
 - ・シラバス作成の学部 FD 研修会の動画配信
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認
 - ・2 月教授会終了後、作成指針に基づき相互チェック〔第三者による点検〕
 - ・担当教員による修正等を行い、シラバスを確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
ナンバリングコード
配当年次
開講期
授業方法分類
科目分類
単位数
担当教員名
所属
授業の目的と概要
到達目標
準備学習（予習・復習等）
授業方法
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】
評価項目の具体的内容
実務経験のある教員による授業科目
履修条件・受講生へのアドバイス
他の科目との関連
教科書
参考書・参考文献
授業計画

【国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科】

- ・学部教授会で「2025年度国際コミュニケーション学部シラバス作成指針」を決定
 - ・シラバス作成の学部FD研修会開催
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認
 - ・学部教務委員会で選出した点検担当者が作成指針に基づき第三者チェック
 - ・担当教員による修正等を行い、シラバスを確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
ナンバリングコード
配当年次
開講期
授業方法分類
科目分類
単位数
担当教員名
所属
授業の目的と概要
到達目標
準備学習（予習・復習等）
授業方法
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】
評価項目の具体的内容
実務経験のある教員による授業科目
履修条件・受講生へのアドバイス
他の科目との関連
教科書
参考書・参考文献
授業計画

【国際コミュニケーション学部 心理社会学科】

- ・学部教授会で「2025 年度国際コミュニケーション学部シラバス作成指針」を決定
 - ・シラバス作成の学部 FD 研修会開催
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認
 - ・学部教務委員会で選出した点検担当者が作成指針に基づき第三者チェック
 - ・担当教員による修正等を行い、シラバスを確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
ナンバリングコード
配当年次
開講期
授業方法分類
科目分類
単位数
担当教員名
所属
授業の目的と概要
到達目標
準備学習（予習・復習等）
授業方法
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】
評価項目の具体的内容
実務経験のある教員による授業科目
履修条件・受講生へのアドバイス
他の科目との関連
教科書
参考書・参考文献
授業計画

【医療保健学部医療技術学科】

- ・学部教授会で「2025 年度医療保健学部シラバス作成指針」を決定
 - ・シラバス作成の学部 FD 研修会開催
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認
 - ・学部教務委員会で選出した点検担当者が作成指針に基づき第三者チェック
 - ・担当教員による修正等を行い、シラバスを確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
配当学年
開講期
必修・選択
講義・演習・実習
単位数
担当教員名
授業の目的と概要
授業の到達目標
準備学習（予習・復習等）
授業方法
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】
実務経験のある教員による授業科目
受講生へのアドバイス
他の科目との関連
教科書
参考書
授業計画
ナンバリング

【医療保健学部理学療法学科】

- ・学部教授会で「2025 年度医療保健学部シラバス作成指針」を決定
 - ・シラバス作成の学部 FD 研修会開催
 - ・担当教員によるシラバス原案作成
 - ・「セルフチェックリスト」に基づき、担当教員が確認
 - ・学部教務委員会で選出した点検担当者が作成指針に基づき第三者チェック
 - ・担当教員による修正等を行い、シラバスを確定
 - ・新年度当初に教務システム上で電子シラバスを公開
- シラバスの項目は以下のとおりとなっている。

項目
科目名
配当学年
開講期
必修・選択
講義・演習・実習
単位数
担当教員名
授業の目的と概要
授業の到達目標
準備学習（予習・復習等）
授業方法
成績評価の基準・方法【評価項目】【割合（％）】
実務経験のある教員による授業科目
受講生へのアドバイス
他の科目との関連
教科書
参考書
授業計画
ナンバリング

授業計画書の公表方法

大学ホームページ 教務システム 学生支援システム
【全学部】
<https://hokuriku-univ.hokuriku-u.ac.jp/up/faces/login/Com00504A.jsp>
 各学部のシラバスは「ゲストユーザー」から検索

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【全学部】

担当教員が、厳格かつ適正に、客観的な方法・基準に基づき、単位の授与・履修の認定を行うために、毎年度「全学的な教育編成・実施の方針」「授業のガイドライン」を全教員に周知している。

あらかじめ学生に示したシラバスに記載されている成績評価の基準・方法に基づき、各科目の学修成果の評価を行い、単位の授与・認定を行っている。

また、科目の成績評価に関して疑義が生じた場合に対応する成績疑義照会制度を導入している。

成績評価の基準は以下のとおりである。

判定	成績評価	成績評価基準	
合格	S (秀)	90点 ~ 100点	科目の目標を大きく上回って達成できていることを表します。
	A (優)	80点 ~ 89点	科目の目標を上回って達成できていることを表します。
	B (良)	70点 ~ 79点	科目の目標を達成できていることを表します。
	C (可)	60点 ~ 69点	最低限の科目の目標を達成できていることを表します。
不合格	F (不可)	59点以下	科目の目標を達成できていないことを表します。
	F 1 (試験欠席)	試験欠席により、不合格となったことを表します。	
	F 2 (受験停止)	授業欠席過多等により、不合格となったことを表します。	
対象外	T C (認定)	他大学等での履修により修得した単位であることを表します。	
	R (合格認定)	資格取得等により認定された単位、もしくは、学部において点数による評価を行わず、合格又は不合格による判定を行うと定めた科目（可否判定科目）で合格と認定された単位であることを表します。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【全学部】 全学部でGPA (Grade Point Average) を取り入れており、学生一人ひとりの学修成果を総合的、かつ客観的に確認できる指標としている。GPAの計算方法は、各履修科目の成績評価 (S、A、B、C、F・F1・F2) をそれぞれ数値化 (4、3、2、1、0) し、その数値化した評点に単位数を乗じた総評点を履修登録科目の総単位数で割って算出している。GPAについては、「履修の手引」に記載されており、全学生に配布、ホームページにも公表している。 学生及び保護者には、各学期末の成績通知書に学期ごとのGPA、通算のGPAを記載して周知している。 【薬学部・医療保健学部】 学年毎の成績の分布状況 (GPA分布状況) 及び科目毎の成績の分布 (科目GP分布) は学部教授会で報告している。 【経済経営学部・国際コミュニケーション学部】 学年毎の成績の分布状況 (GPA分布状況) は学部教授会で報告している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	(薬学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/pharmacy_guidance2025.pdf (経済経営学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf (国際コミュニケーション学部) www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf (医療保健学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の使命・目的及び建学の精神に基づき各学部の「教育理念」を定め、各学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として定めている。それらをもとに大学全体及び各学部の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を策定し、学生便覧、履修の手引、大学案内並びに大学ホームページに明示し、広く公表している。

大学全体及び学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は以下のとおり。

【2019年度以降入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

【2015年度～2018年度入学生用】

■大学全体

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力
- (2) 社会で求められるコミュニケーション力と適格な判断力
- (3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力

□薬学部

【2024 年度以降薬学部入学生用】

■学部

本学薬学部では、臨床現場で実践的能力を発揮するとともに、倫理観、使命感、責任感を兼ね備えた薬剤師を輩出することを責務とする。このような人材を育成するために、以下の能力(知識・技能・態度)を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与する。

(1) プロフェッショナリズム

薬学・医療と社会領域の理解に基づき、生命・医療に係る倫理観、使命感、責任感をもって、健康社会の実現に向けて最善を尽くす信念と態度で行動できる。

(2) コミュニケーション能力

患者・生活者、他職種、同僚等との対話を通して、相手の心理、立場、環境を理解するとともに、自分の考えや感情を適切に伝えるコミュニケーション能力を有し、相手と信頼関係を構築して積極的に協力できる。

(3) 薬学専門知識の活用

・薬学専門知識の理解に基づき、その知識・技術・態度を統合して領域横断的に活用できる。

・情報リテラシーの理解に基づき、情報・科学技術を薬学各領域において有効に活用できる。

(4) 薬学・医療における科学的探究能力

薬学・医療における課題を科学的に探究し、論理的思考に基づいて解決に向けて取り組むことができる。

(5) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

生涯にわたり自己研鑽するとともに、後進の育成及び他者と共に学び続ける必要性を理解し、意欲を持って行動できる。

(6) 医療・社会における実践的能力

・薬学的管理の流れを把握し、医薬品の性質・作用機序を理解し、法的根拠に基づいた医薬品の供給・管理、安全で適正な調剤業務を遂行できる。

・患者・生活者の背景を適切に収集し、根拠に基づいて対応できる。

・医薬品に関する医療過誤防止において、医療安全に係る対策を提案できる。

・患者・生活者に対する全人的な視点に立ち、多職種と協働して最適な薬物療法を提案できる。

・患者・生活者の健康維持・増進に向けて、地域医療・地域保健に参画する。

■卒業要件

6 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 188 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5 単位 11.5 単位	計16.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	120単位 34単位	計154単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 7.5単位以上	計17.5単位以上
合計		188単位以上	

【2023 年度薬学部入学生用】

■学部

本学薬学部では、臨床現場で実践的能力を発揮するとともに、倫理観、使命感、責任感を兼ね備えた薬剤師を輩出することを責務とする。こうした人材を育成するために、以下の能力(知識・技能・態度)を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与する。

- (1) 医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。
- (2) 医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけている。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。
- (5) 薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的能力とコミュニケーション能力を有している。
- (6) 薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。
- (7) 国民の健康で安全な生活の確保に資するために、論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。
- (8) 薬学・医療の進歩に対応するために、医療の担い手として生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

■卒業要件

6 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 190 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5 単位 12.5 単位	計17.5 単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	113.5 単位 40 単位	計153.5 単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10 単位以上 9 単位以上	計19 単位以上
合計		190 単位以上	

【2019 年度～2022 年度薬学部入学生用】

■学部

人材養成の目的に基づき、以下の能力(知識・技能・態度)を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与する。

- (1) 医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。
- (2) 医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけている。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。
- (5) 薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的な能力とコミュニケーション能力を有している。
- (6) 薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。
- (7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。

(8) 薬学・医療の進歩に対応するために、生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の190単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 12.5単位	計17.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	113.5単位 40単位	計153.5単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 9単位以上	計19単位以上
合計		190単位以上	

【2015年度～2018年度薬学部入学生用】

■学部

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（薬学）の学位を授与する。

- (1) 医療人としての倫理観を身につけていること
- (2) 医療の一翼を担う人材として、確かな知識・技能、コミュニケーション力を身につけていること
- (3) 諸問題の解決に向けて、修得した知識・技能等を実践的に活用できること

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の189.5単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 10単位	計15単位
薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンス教育専門コース演習科目	必修科目	113単位 44.5単位 5単位	計162.5単位
総合教養教育科目・1～3年次 薬学専門教育科目 4年次薬学専門教育科目	選択科目	8単位以上 4単位以上	計12単位以上
合計		189.5単位以上	

□経済経営学部 マネジメント学科

【2024 年度以降経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

（知識・技能）

（1）社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。

（2）マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。

（思考力・判断力・表現力）

（3）情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。

（4）課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。

（5）課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

（6）自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。

（7）多様な個の存在を認め、尊重することができる。

（8）他者と協働し、課題を解決することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 マネジメント学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22 単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から			
専門教育科目群	データサイエンス・AI 科目	必修	2 単位	72 単位以上
	専門科目	必修	6 単位	
		選択	32 単位以上	
	演習科目	必修	18 単位	
	上記に加え、専門教育科目群から			
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30 単位以上
合 計				124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

【2019～2023 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

(1) 知識・技能

- ① 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を身につけている。
- ② マネジメント関連分野の専門知識と技能を身につけている。

(2) 思考力・判断力・表現力

- ③ 課題や解決策を見だし、論理的に表現する力を身につけている。
- ④ 経験から学び、成長する力を身につけている。

(3) 主体性・多様性・協働性

- ⑤ 自ら進んで他者と協働し、課題を解決する力を身につけている。
- ⑥ 多様性や国際性を理解し、行動する力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 マネジメント学科			
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位
		選択	9 単位以上
	外国語科目（※1）	必修	4 単位
		選択	6 単位以上
汎用的技能科目群	リテラシー科目	必修	2 単位
		選択	10 単位以上
	キャリア科目		6 単位
専門教育科目群	演習科目（※2）	必修	22 単位
	マネジメント科目及び マネジメント実践科目	必修	8 単位
		選択（※3）	40 単位以上
自由科目群を除く全ての科目群			16 単位以上
合 計			124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

※2 卒業論文を作成しない場合、卒業研究の単位は6単位とし、演習科目における卒業に必要な単位数は18単位とする。

※3 卒業論文を作成しない場合、マネジメント科目及びマネジメント実践科目（選択）における卒業に必要な単位数は44単位とする。

※4 自由科目群科目は、卒業要件単位に含まない。

□経済経営学部 経済学科

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（経済学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。
- （2）経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。
- （4）物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。
- （5）分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）自己を理解し、主体的に行動することができる。
- （7）自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。
- （8）チームで協働し、課題を解決することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 経済学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22 単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から			
専門教育科目群	データサイエンス・AI 科目	必修	2 単位	72 単位以上
	経済基幹科目	必修	10 単位	
	経済基幹科目及び 経済専門科目	選択	28 単位以上	
	演習科目	必修	18 単位	
	上記に加え、専門教育科目群から			
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30 単位以上
合 計				124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

□国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

【2021 年度以降国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与する

- (1) 英語または中国語の実践的な運用能力を身につけている。
- (2) 言語の仕組みとその背景の文化について理解している。
- (3) 国際情勢とグローバル社会について理解している。
- (4) 北陸を中心に、日本の文化・社会について理解している。
- (5) 多様な文化的社会的背景を持つ人々ともコミュニケーションを図り、協働する力を身につけている。
- (6) 獲得した知識に基づいて自分の意見を論理的に述べることができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 124 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
一般教育科目	教養科目	7 単位以上（必修 3 単位含む）
	心理社会科目	
	キャリア科目	4 単位以上（必修 2 単位含む）
専門教育科目	語学科目	40 単位以上（必修 20 単位含む）
	言語理解科目	44 単位以上（必修 2 単位含む）
	文化理解科目	
	国際理解科目	
	専門演習科目	16 単位 ※海外留学 A～D を修得した当該学期中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学 A～D を修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位取得を免除し、修得した単位は卒業要件修得単位数に算入することができる。
合計 124 単位以上		

【2020 年度以前国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与する。

〈知識・理解〉

- (1) 英語又は中国語の実践的な運用・コミュニケーション能力を身につけ、国際情勢と日本、特に北陸の魅力と強みを理解することができる。
- (2) 獲得した知識を活用することによって、経験したことのない状況においても物事の本質を捉えるための判断基準、すなわち知識の枠組みを身につける。

〈態度・思考〉

- (1) 留学や海外研修、海外インターンシップなどを通して、グローバル社会に飛び出そうとするチャレンジ精神を身につける。
- (2) 異文化を尊重し、違いを許容して、よりよい社会を目指して共生しようとする思考を身につける。

〈汎用的能力〉

- (1) 留学生との交流やフィールドワークでの協働体験、海外留学や海外研修、海外インターンシップを通じて、多様な文化的社会的背景を持つ人々と共生し、協働できる力を身につける。

〈総合的な学修経験と創造的思考力〉

- (1) 課題解決型学習（PBL；Problem Based Learning）やフィールドワークなどを通して、地域社会のリアルな課題に取り組み、正解のない問題に対しても獲得した知識を活用して考え抜く力を身につける。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	
専門教育科目	基礎科目
	8単位以上
	語学科目
	40単位以上（必修20単位含む）
	言語理解科目
	40単位以上
	日本・国際理解科目
	※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。
	専門演習科目
	12単位以上
	※海外留学A～Dを修得した当該学期中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目
	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位は卒業要件修得単位とする。
計 100 単位以上	
一般教育科目	
8単位以上（必修4単位含む）	
キャリア科目	
4単位以上（必修2単位含む）	
合 計	
124 単位以上	
※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。	

□国際コミュニケーション学部 心理社会学科

■学部

本学部及び本学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（心理学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。
- （2）多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。
- （4）社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。
- （5）多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科			
総合教育科目	必修科目	4 単位	計 20 単位以上
	選択科目	16 単位以上	
専門教育科目	必修科目	24 単位	計 104 単位以上
	選択科目		
	共通領域及び展開応用科目	58 単位以上	
	現代社会科目	22 単位以上	
合計 124 単位以上			

□医療保健学部 医療技術学科

【2023 年度以降医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）医療技術者としての知識と技能を理解している。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。
- （3）修得した医療技術を安全に実施することができる。

（思考力・判断力・表現力）

- （4）医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- （5）医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
- （7）医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 128 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	11 単位	計 19 単位以上 ・臨床工学コースの場合は「データサイエンス」を修得すること。
	選択科目	8 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	26 単位	計 27 単位以上 ・「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。
	選択科目	1 単位以上	
専門科目	必修科目	31 単位	計 82 単位以上 ・臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から 1 科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を 2 科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む 2 科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を 1 科目以上修得すること。
	選択科目	51 単位以上	
合 計	128 単位以上		

【2022 年度医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）医療技術者としての知識と技能を理解している。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。

- (3) 修得した医療技術を安全に実施することができる。
 (思考力・判断力・表現力)
 (4) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
 (5) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。
 (主体性・多様性・協働性)
 (6) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
 (7) 医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の128単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	11 単位	計 19 単位以上
	選択科目	8 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	26 単位	計 27 単位以上 ・「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。
	選択科目	1 単位以上	
専門科目	必修科目	31 単位	計 82 単位以上 ・臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から1科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を2科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む2科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を1科目以上修得すること。
	選択科目	51 単位以上	
合 計	128 単位以上		

【2021 年度医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(医療技術学)の学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。
 (2) 医療人としての幅広い教養を身につけている。
 (3) 修得した医療技術を安全に実施することができる。

(思考力・判断力・表現力)

- (4) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
 (5) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

(主体性・多様性・協働性)

- (6) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
 (7) 医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の130単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目 選択科目	12単位 8単位以上	計20単位以上
専門基礎科目	必修科目	45単位	計45単位
専門科目	必修科目 選択科目	63単位 2単位以上	計65単位以上
合計		130単位以上	

□医療保健学部 理学療法学科

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（理学療法学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）理学療法士としての基本的な知識と技術を身につけている。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。
- （3）科学的根拠に基づくリハビリテーションを実践することができる。

（思考力・判断力・表現力）

- （4）健康・疾病・障害・予防の諸問題を理学療法の視点と研究法により探求し、課題解決に取り組む能力を身につけている。
- （5）チーム医療及び地域の保健医療に参画するコミュニケーション力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）リハビリテーションの発展に貢献する探究心を持ち、さらなる知識や技術を生涯に渡り積極的に学び続ける態度を身につけている。
- （7）生命倫理や人の尊厳、多職種連携を理解し、他者を思いやり協働できる力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の128単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 理学療法学科			
一般教養科目	必修科目	7 単位以上	14 単位以上
	選択科目	7 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	41 単位	41 単位
専門科目	必修科目	63 単位	
	選択科目	「予防理学療法学」または、「先進技術と理学療法学」からどちらか 1 科目 2 単位選択必修	
合計 128 単位以上			

卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 (薬学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/departement/pharmacy_guidance2025.pdf (経済経営学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/departement/management_guidance2025.pdf (国際コミュニケーション学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/departement/communication_guidance2025.pdf (医療保健学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/departement/medical_guidance2025.pdf 大学ホームページ (大学全体) https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html (薬学部) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departement/pharmacy/policy.html (経済経営学部マネジメント学科) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departement/management/policy.html (経済経営学部経済学科) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departement/economics/policy.html (国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departement/communication/policy.html (国際コミュニケーション学部心理社会学科) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departement/psychology/policy.html
----------------------	---

	(医療保健学部医療技術学科) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departments/medical/policy.html (医療保健学部理学療法学科) https://www.hokuriku-u.ac.jp/departments/physical_therapy/policy.html
--	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北陸大学
設置者名	学校法人北陸大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html
財産目録	大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html
事業報告書	大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html
監事による監査報告(書)	大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書 対象年度:2024 年度)
公表方法: https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/houjin.html
中長期計画(名称:長期ビジョン・第2期中期計画 対象年度:2021~2025 年度)
公表方法: https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/vision.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/jabpe.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/jihe.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/pharmacy_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html)
(概要) ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■学部の教育理念 人の命と健康を守る、医療の担い手としての薬剤師の養成をもって社会に貢献する。 ■人材養成の目的 学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として、次のとおり定める。 医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/pharmacy_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学部） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/pharmacy/policy.html>)

（概要）

【2024 年度以降薬学部入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学薬学部では、臨床現場で実践的能力を発揮するとともに、倫理観、使命感、責任感を兼ね備えた薬剤師を輩出することを責務とする。このような人材を育成するために、以下の能力（知識・技能・態度）を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

（1）プロフェッショナリズム

薬学・医療と社会領域の理解に基づき、生命・医療に係る倫理観、使命感、責任感をもって、健康社会の実現に向けて最善を尽くす信念と態度で行動できる。

（2）コミュニケーション能力

患者・生活者、他職種、同僚等との対話を通して、相手の心理、立場、環境を理解するとともに、自分の考えや感情を適切に伝えるコミュニケーション能力を有し、相手と信頼関係を構築して積極的に協力できる。

（3）薬学専門知識の活用

・薬学専門知識の理解に基づき、その知識・技能・態度を統合して領域横断的に活用できる。

・情報リテラシーの理解に基づき、情報・科学技術を薬学各領域において有効に活

用できる。

(4) 薬学・医療における科学的探究能力

薬学・医療における課題を科学的に探究し、論理的思考に基づいて解決に向けて取り組むことができる。

(5) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

生涯にわたり自己研鑽するとともに、後進の育成および他者と共に学び続ける必要性を理解し、意欲をもって行動できる。

(6) 医療・社会における実践的能力

・薬学的管理の流れを把握し、医薬品の性質・作用機序を理解し、法的根拠に基づいた医薬品の供給・管理、安全で適正な調剤業務を遂行できる。

・患者・生活者の背景を適切に収集し、根拠に基づいて対応できる。

・医薬品に関する医療過誤防止において、医療安全に係る対策を提案できる。

・患者・生活者に対する全人的な視点に立ち、多職種と協働して最適な薬物療法を提案できる。

・患者・生活者の健康維持・増進に向けて、地域医療・地域保健に参画する。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の188単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 11.5単位	計16.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	120単位 34単位	計154単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 7.5単位以上	計17.5単位以上
合計		188単位以上	

【2023年度薬学部入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

(1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。

(2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

(3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。

(4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成

しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学薬学部では、臨床現場で実践的能力を発揮するとともに、倫理観、使命感、責任感を兼ね備えた薬剤師を輩出することを責務とする。こうした人材を育成するために、以下の能力(知識・技能・態度)を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与する。

- (1) 医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。
- (2) 医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけている。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。
- (5) 薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的能力とコミュニケーション能力を有している。
- (6) 薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。
- (7) 国民の健康で安全な生活の確保に資するために、論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。
- (8) 薬学・医療の進歩に対応するために、医療の担い手として生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の190単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 12.5単位	計17.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	113.5単位 40単位	計153.5単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 9単位以上	計19単位以上
合計		190単位以上	

【2019年度～2022年度薬学部入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。

(4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

人材養成の目的に基づき、以下の能力(知識・技能・態度)を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与する。

(1) 医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。

(2) 医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。

(3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけている。

(4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。

(5) 薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的な能力とコミュニケーション能力を有している。

(6) 薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。

(7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。

(8) 薬学・医療の進歩に対応するために、生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の190単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 12.5単位	計17.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	113.5単位 40単位	計153.5単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 9単位以上	計19単位以上
合計		190単位以上	

【2015年度～2018年度薬学部入学生用】

■大学全体

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた者に卒業認定し、学位を授与する。

(1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力

(2) 社会で求められるコミュニケーション力と適格な判断力

(3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力

■学部

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(薬学)の学位を授与する。

(1) 医療人としての倫理観を身につけていること

(2) 医療の一翼を担う人材として、確かな知識・技能、コミュニケーション力を身に

つけていること

(3) 諸問題の解決に向けて、修得した知識・技能等を実践的に活用できること

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の189.5単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 10単位	計15単位
薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンス教育専門コース演習科目	必修科目	113単位 44.5単位 5単位	計162.5単位
総合教養教育科目・1～3年次 薬学専門教育科目 4年次薬学専門教育科目	選択科目	8単位以上 4単位以上	計12単位以上
合計		189.5単位以上	

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/pharmacy_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学部） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/pharmacy/policy.html> ）

（概要）

【2024 年度以降薬学部入学生用】

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

カリキュラム編成

ディプロマ・ポリシーに掲げた 6 つの資質・能力を修得するために、全科目（講義・演習、実習）において、アクティブラーニング型授業を取り入れ、体系的かつ段階的な教育課程を編成する。

(1) プロフェッショナリズム

・物事を多角的にみる能力を修得し、健康社会の実現に向けて行動できるように、薬学を学ぶ土台作りのための人文科学、社会科学及び自然科学などを広く学修する科目を 1・2 年次に配置する。

・生命・医療に係る倫理観、使命感、責任感をもって、最善を尽くす信念と態度で行動できるように、6 年間を通して薬学・医療と社会領域の科目を配置する。

(2) コミュニケーション能力

相手の心理、立場、環境を理解するとともに、自分の考えや感情を適切に伝え、相手と信頼関係を構築して積極的に協力できるように、6年間を通して、適切なコミュニケーション能力を醸成する科目を段階的に配置する。

(3) 薬学専門知識の活用

薬学専門知識は、7つの領域に分けて各領域を学修する科目を段階的に配置する。また、各領域の薬学専門知識を領域横断的に活用するために、各領域を互いに関連付けて体系的に配置する。

- ・物理化学領域では、医薬品を含む化学物質とそれが作用する生体分子の物性、反応、相互作用を物理化学的に理解するとともに、物理的・化学的原理に基づいた分析法を適切に利用できるように、1年次から2年次に「化学物質の物理化学的性質」及び「医薬品及び化学物質の分析法と医療現場における分析法」について学修する科目を段階的に配置する。

- ・化学領域では、有機化合物の化学的な構造・性質や反応性を理解し、医薬品の性質や作用を説明できるように、1年次から3年次にかけて薬学における「有機化学」、「医薬品化学」及び「生薬学・天然物化学」について学修する科目を段階的に配置する。

- ・生物学領域では、人体を構成する器官、組織、細胞、生体分子の構造と機能、及び生体の恒常性維持機構を理解し、病態や疾患及び治療薬が作用する仕組みを学修するための基盤を形成できるように、1年次から2年次に「生命現象の基礎」及び「人体の構造と機能及びその調節」を学修する科目を段階的に配置する。

- ・薬理・病態・薬物治療学領域では、薬物治療を実践するため、基本となる疾患の病態生理と薬物の作用のメカニズムを関連付けて理解し、ガイドラインによる標準化された治療方針を提供できるように、2年次から4年次にかけて「薬物の作用と生体の変化」及び「薬物治療につながる薬理・病態」を学修する科目を段階的に配置する。

- ・薬剤学領域では、生体内の薬物動態、製剤材料の物性、実践的な調剤理論を理解し、個々の患者への適切な薬物投与方法の立案、適切な製剤の提供ができるように、3年次から4年次に「薬の生体内運命」、「製剤化のサイエンス」及び「個別最適化の基本となる調剤」を学修する科目を配置する。

- ・衛生薬学領域では、公衆衛生、栄養・食品衛生、化学物質や環境衛生上の課題に対して健康社会の実現や人々の健康な生活を確保する対策を立案できるように、2年次から4年次にかけて「健康の維持・増進をはかる公衆衛生」、「健康の維持・増進につながる栄養と食品衛生」及び「化学物質の管理と環境衛生」を学ぶ科目を段階的に配置する。

- ・情報薬学領域では、情報・科学技術の薬学各領域における有効な活用、並びに、医薬品情報のみならず患者の情報の適切な取り扱いができるように、1年次に情報リテラシーの基礎を修得し、3年次から4年次に「情報・科学技術の活用」及び「医療における意思決定に必要な医薬品情報」を学修する科目を配置する。

実習を通して実践的な知識として定着させるために、各領域に対応した実習科目を体系的に配置する。

物理化学、化学、生物学領域の理解に基づき、分野内で知識・技能・態度を活用するための演習科目を3年次に、薬理・病態・薬物治療学、薬剤学、衛生薬学及び情報薬学領域の理解に基づき、分野内で知識・技能・態度を活用するための演習科目を4年次に配置する。また、領域横断的な知識・技能・態度を活用するための演習科目を5年次から6年次に配置する。

(4) 薬学・医療における科学的探究能力

論理的思考に基づいて課題の解決に向けて取り組むことができるように、実習や演習、卒業研究を通して薬学・医療の視点で科学的探究をする科目を1年次より体

系的に配置する。

(5) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

薬学の専門家として自己研鑽し、幅広い知識・技能・態度を修得できるように、6年間を通して選択科目・自由科目を配置する。後進の育成及び他者と共に学び続ける必要性を理解し、意欲をもって行動できるように、演習科目、卒業研究を配置する。

(6) 医療・社会における実践的能力

薬学を学ぶための使命感・責任感を修得できるように、医療・社会に触れる科目を1年次から3年次にかけて配置する。

法的根拠に基づいた医薬品の供給・管理、安全で適正な調剤業務の遂行、EBM（根拠に基づく医療）及びNBM（個々人の物語に基づく医療）を踏まえた患者・生活者対応、医療安全に係る対策の提案、多職種と協働しての最適な薬物療法の提案、患者・生活者の健康維持・増進に向けた地域医療・地域保健への参画に資するよう、講義・演習、実習科目を3年次から6年次にかけて体系的かつ段階的に配置する。

(学修成果の評価)

- ・授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- ・学修成果の評価は、学修ポートフォリオの他、正課外活動についても卒業認定コモンスルーブリックを用い、学年毎に学生自身が成長過程を自己評価するとともに、教員が形成的・総括的に評価する。

【2023 年度薬学部入学生用】

■大学全体

(教育課程編成)

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

(学修方法)

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

ディプロマ・ポリシーに掲げた8つの資質・能力を学生が修得するために、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、以下の各方針に基づいて設定された学修内容を体系的に編成する。

- (1) 医療や人の健康に携わる者として幅広い教養を学ぶため、人文科学系科目、社会科学系科目、語学系科目等を開講する。さらに薬学を学ぶ土台作りのために、1・2年次に「医療人」やアクティブラーニングを主体とした「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」等の科目を開講する。
- (2) 医療人である薬剤師としての倫理観、使命感、責任感を醸成するため、下級学年では「医療人」や「薬学と社会」を、上級学年では「薬剤師倫理」等の科目を設ける。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけるため、薬学基礎系、衛生薬学系、医療薬学系の薬学専門科目や実習系科目を順次性をもって配置する。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を醸成するため、下級学年では体験型学習を主体とする「早期体験学習」を、また、上級学年では「臨床薬学実習」「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」等を開講する。
- (5) 薬剤師としてチーム医療及び地域の保健・医療に参画する上で必要な実践的能力とコミュニケーション能力を身につけるため、アクティブラーニング型授業の「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」に始まり、「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」「病院・薬局実務実習」「卒業研究」に至る体系的なプログラムを展開する。
- (6) 薬剤師として個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を身につけるため、医療薬学系、薬学臨床系科目を展開する。
- (7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を身につけるため、実習系科目や「臨床薬学コース」と「薬科学コース」からなる「卒業研究」を、下級学年から上級学年まで順次性をもって配置する。
- (8) 生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する資質・能力を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」から「総合薬学演習」に至る体系的なプログラムを展開する。

なお、これらのポリシーに基づき編成したカリキュラムの全容はカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーに示し、個々の授業の目的と概要、学習目標、妥当性・信頼性のある成績評価方法、授業計画をシラバスに記載することによりカリキュラムの体系的性を担保し可視化する。

また、質保証の観点から学修成果の評価は、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける各項目の終盤においてパフォーマンス課題を用いて行う。

【2020年度～2022年度薬学部入学生用】

■大学全体

(教育課程編成)

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

(学修方法)

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進

する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

人材養成の目的に基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した以下の教育課程を編成する。

- (1) 医療や人の健康に携わる者として幅広い教養を学ぶため、人文科学系科目、社会科学系科目、語学系科目等を開講し、さらに1・2年次にアクティブラーニングを主体とした「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」「医療人」等の科目を提供することで薬学を学ぶ土台づくりをする。
- (2) 医療人である薬剤師としての倫理観、使命感、責任感を醸成するため、低学年では「医療人」等を、上級学年では「薬剤師倫理」等の科目を設ける。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけるため、全学年で薬学基礎系、衛生薬学系、医療薬学系の薬学専門科目を、1～4年次で各種の実習科目を開講する。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を醸成するため、低学年では「早期体験学習」を、また、上級学年では「臨床薬学実習」「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」等の体験型学習を展開する。
- (5) 薬剤師としてチーム医療及び地域の保健・医療に参画する上で必要な実践的能力とコミュニケーション能力を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」を中心としたアクティブラーニング型授業に始まり、「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」「病院・薬局実務実習」「卒業研究」に至る体系的なプログラムを展開する。
- (6) 薬剤師として個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を身につけるため、医療薬学系、薬学臨床系科目を配置する。
- (7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を身につけるため、臨床薬学コースと薬科学コースからなる「卒業研究」を実施する。
- (8) 生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する能力・素養を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」から「総合薬学演習」に至る体系的なプログラムを展開する。

なお、これらのポリシーに基づき編成したカリキュラムの全容はカリキュラムマップに示し、個々の授業の目的と概要、学習目標、妥当性・信頼性のある成績評価方法、授業計画をシラバスに記載することによりカリキュラムの体系的性を担保し可視化する。

また、質保証の観点から学修成果の評価は、教育プログラム（またはユニット）の終了後もしくは終盤においてパフォーマンス課題を用いて行う。

【2019年度薬学部入学生用】

■大学全体

(教育課程編成)

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

(学修方法)

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

人材養成の目的に基づき、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した以下の教育課程を編成する。

- (1) 医療や人の健康に携わる者として幅広い教養を学ぶため、人文科学系科目、社会科学系科目、語学系科目等を開講し、さらに1・2年次にアクティブラーニングを主体とした「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」「医療人」等の科目を提供することで薬学を学ぶ土台づくりをする。
- (2) 医療人である薬剤師としての倫理観、使命感、責任感を醸成するため、低学年では「医療人」等を、上級学年では「薬剤師倫理」等の科目を設ける。
- (3) 薬の専門家として必要な科学力を身につけるため、全学年で薬学基礎系、衛生薬学系、医療薬学系の薬学専門科目を、1～4年次で各種の実習科目を開講する。
- (4) 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を醸成するため、低学年では「早期体験学習」を、また、上級学年では「臨床薬学実習」「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」等の体験型学習を展開する。
- (5) 薬剤師としてチーム医療及び地域の保健・医療に参画する上で必要な実践的能力とコミュニケーション能力を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」を中心としたアクティブラーニング型授業に始まり、「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」「病院・薬局実務実習」「卒業研究」に至る体系的なプログラムを展開する。
- (6) 薬剤師として個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を身につけるため、医療薬学系、薬学臨床系科目を配置する。
- (7) 論理的思考に基づく問題発見・解決能力を身につけるため、臨床薬学コースと薬科学コースからなる「卒業研究」を実施する。
- (8) 生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する能力・素養を身につけるため、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」から「総合薬学演習」に至る体系的なプログラムを展開する。

なお、これらのポリシーに基づき編成したカリキュラムの全容はカリキュラムマップに示し、個々の授業の目的と概要、学習目標、成績評価方法、授業計画をシラバスに記載する。

【2018年度以前薬学部入学生用】

■大学全体

本学では、基礎教育科目、外国語科目及び専門教育科目の三つを柱とし、各学部学科の教育目標にあわせた教育課程を編成する。また、課外教育においても、充実した各種教育プログラムを展開し、全教職員で本学学生の人間の成長を促し、全人教育を

実現する。

- 1 基礎教育科目を通して、専門性にとらわれない広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成する。
- 2 外国語科目を通して、グローバルに活躍できる外国語によるコミュニケーション力を身につけた人材を育成する。
- 3 専門教育科目を通して、専門的な知識を修め、社会の進歩や変革に応え得る深い学識を有する人材を育成する。
- 4 各種課外教育プログラムを通して、国際性と地域性を兼ね備えた 21 世紀に求められる人材を育成する。

■学部

「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」に準拠した教育を行うとともに、以下のとおり幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、医療人としての豊かな人間力を育てることを第一とした薬学教育を行う。

- (1) 医療人としての自覚と人間性（倫理観、使命感、責任感）を持ち、人としての優しさや思いやりの心、豊かな人間力を育てるための教養教育を行う。
- (2) 薬を理解するために、最新の科学に基づいた薬学教育を行う。
- (3) 全人的な医療を目指す統合医療に精通した医療人を養成するため、西洋医薬学と東洋医薬学の正確な知識・技能を培う教育を行う。
- (4) 実践的な能力を持つ薬剤師を育成するための薬学教育を行う。
- (5) コース別科目「高度医療薬剤師演習」「東洋医薬学演習」「健康医療薬学演習」を設け、各自の進路に応じた高度な演習を行う。
- (6) 科学的根拠に基づいた問題解決能力を養うため、各研究室に学生を配属し、研究課題を通して、少人数による総合薬学研究を行う。
- (7) 薬剤師として必要な知識・技能、態度を総合して発揮できるよう総合薬学演習を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/pharmacy_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学部） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/pharmacy/policy.html> ）

（概要）

【2024 年度以降薬学部入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- （2）自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- （3）多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学薬学部は、倫理観、使命感、責任感を兼ね備え、臨床現場において実践的能力を発揮できる薬剤師を輩出することを目指している。この目的と本学の建学の精神に共感し、以下の能力・意欲を持った人を受け入れる。

- （1）【知識・技能】
薬学を修得するための基礎学力が身についている人
 - （2）【思考力・判断力・表現力】
物事に対して広く考えて判断し、自分の考えを他者に適切に伝えることができる人
 - （3）【主体性】
 - ・社会に貢献する意欲のある人
 - ・目標に対し努力し続けることができる人
 - （4）【多様性・協働性】
 - ・積極的に他者と関わり、相手の考えや感情に共感できる人
 - ・周囲の人とコミュニケーションをとり、協働する態度を有する人
- いずれの選抜方式においても、筆記試験、書類審査（調査書、推薦書、エントリーシート等）、レポート、観察評価、プレゼンテーション、面接、リフレクションシートの中から複数を組み合わせて、アドミッション・ポリシーに基づく能力・意欲を評価する。

【2023 年度薬学部入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につ

けている人

- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学薬学部は、倫理観、使命感、責任感を兼ね備え、臨床現場において実践的能力を発揮できる薬剤師を輩出することを目指している。この目的と本学の建学の精神に共感し、以下の能力・意欲を持った人を受け入れる。

(1) 【知識・技能】

薬学を学ぶにあたり、知識・技能を修得するための基礎学力が身につけている人

(2) 【思考力・判断力・表現力】

- ・物事を掘り下げて考え、客観的かつ的確に判断し、解決しようとする人
- ・論理的な考えを的確に他者に伝える表現力を有する人

(3) 【主体性】

- ・社会に貢献する意欲のある人
- ・目標に対し努力し続けることができる人

(4) 【多様性・協働性】

- ・積極的に他者と関わり、相手の考えや感情に共感できる人
- ・周囲の人とコミュニケーションをとり、協働する態度を有する人

参考：「学力の3要素」とは、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を指す。

【2019年度～2022年度薬学部入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

(1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人

(2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人

(3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学の建学の精神に共感し、以下の能力・意欲を持った人を受け入れる。

(1) 薬学を学ぶにあたり、高等学校卒業程度の知識を修得し、活用する力を有する人

(2) 薬学に興味を持ち、薬剤師として健康社会の実現に貢献しようとする強い意欲を有する人

(3) 人とのコミュニケーションを大切にし、多様な人々と協働する態度を有する人

(4) 基礎的科学力を身につけ、薬学分野での研究を志す人

【2018年度以前薬学部入学生用】

■大学全体

建学の精神に基づき、21世紀に必要とされる幅広い教養を身につけ、社会で即戦力となる人材育成を目標とした実学教育を実践し、学生一人ひとりに深い愛情と情熱を注ぎ、親身な指導を通して学生の人格を形成することを教育理念とし、学ぶ意欲のある者を広く受け入れる。

・本学が求める学生像

1 心身ともに、未来に生きるたくましさに満ちた人

2 明るくさわやかに、学ぶ大切さと喜びを知り、行動する人

- 3 人の痛みが分かり、心優しく思いやりのある豊かな人
- 4 礼節を重んじ、正直で誠実に何事にも真摯に取り組む人
- 5 豊かな教養、優れた外国語能力とコミュニケーション力、的確な判断力を持ち、世界の発展に貢献できる人
- 6 自らの生活を律し、人間形成に努める人

■学部

人材養成の目的を達成するために主体性をもって勉学に励むことができる以下のような学生を広く求める。

- 1 自然や生命への強い関心と探究心を持つ人
- 2 人を思いやる心と協調性を持って取り組むことができる人
- 3 薬剤師として医療福祉や健康増進に国内外で貢献したいという熱意のある人
- 4 何事にも積極的に取り組むことができる人

学部等名 経済経営学部マネジメント学科 教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html)
(概要) 【2024 年度以降経済経営学部マネジメント学科入学生用】 ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■教育理念 【経済経営学部】 生涯学び、成長し続けられる人材の養成をとおして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。 【マネジメント学科】 社会・組織・自己をマネジメントする力を身につけた人材の養成をとおして、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。 ■人材養成の目的 【経済経営学部】 広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見し解決することを通じて、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。 【マネジメント学科】 マネジメント5分野（経営学、会計学、情報学、法学、経済学）の知識と技能を備え、社会・組織・自己における諸課題を多角的に捉え解決できるマネジメント力を持つ人材を養成する。 【2019～2023 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】 ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■学部の教育理念 組織や社会で活かされるマネジメント力で、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。 ■人材養成の目的 健康な地域社会、企業や組織及び自己の形成と発展に寄与するために、「マネジメント力」を持った人材を養成する。すなわち、社会・組織・自己のマネジメントに関連する知識と技能を身につけ、グローバルな視野と責任感をもって、自ら進んで他者と協働し課題を解決する力と、生涯学び成長し続けられる力を持つ人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法）

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/management/policy.html> ）

（概要）

【2024 年度以降経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。
- （2）マネジメント5分野の専門知識と技能を備えている。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。
- （4）課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。
- （5）課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。

(7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。

(8) 他者と協働し、課題を解決することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 マネジメント学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22 単位以上
	外国語科目 (※1)	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から		17 単位以上	
専門教育科目群	データサイエンス・AI 科目	必修	2 単位	72 単位以上
	専門科目	必修	6 単位	
		選択	32 単位以上	
	演習科目	必修	18 単位	
上記に加え、専門教育科目群から			14 単位以上	
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30 単位以上
合 計				124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

【2019～2023 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

(1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。

(2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

(3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。

(4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成

しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

(1) 知識・技能

① 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を身につけている。

② マネジメント関連分野の専門知識と技能を身につけている。

(2) 思考力・判断力・表現力

③ 課題や解決策を見だし、論理的に表現する力を身につけている。

④ 経験から学び、成長する力を身につけている。

(3) 主体性・多様性・協働性

⑤ 自ら進んで他者と協働し、課題を解決する力を身につけている。

⑥ 多様性や国際性を理解し、行動する力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位
		選択	9 単位以上
	外国語科目（※1）	必修	4 単位
		選択	6 単位以上
汎用的技能科目群	リテラシー科目	必修	2 単位
		選択	10 単位以上
	キャリア科目		6 単位
専門教育科目群	演習科目（※2）	必修	22 単位
	マネジメント科目及び マネジメント実践科目	必修	8 単位
		選択（※3）	40 単位以上
自由科目群を除く全ての科目群			16 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

※2 卒業論文を作成しない場合、卒業研究の単位は6単位とし、演習科目における卒業に必要な単位数は18単位とする。

※3 卒業論文を作成しない場合、マネジメント科目及びマネジメント実践科目（選択）における卒業に必要な単位数は44単位とする。

※4 自由科目群科目は、卒業要件単位に含まない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/management/policy.html> ）

（概要）

【2024 年度以降経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、各学科でカリキュラム・ポリシーを定める。

■学科

（教育課程編成）

人材養成の目的を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに科目間の連携や学修の順序をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー、履修モデル等で明示する。

- (1) 視野を広げ、知識への好奇心を高めるとともに、アカデミック・スキルを育成するために、「一般教育科目群」を配置する。
- (2) 自ら情報を収集・分析し、根拠に基づき解決策を提案する力を育成するために、

「データサイエンス・AI 科目」を配置する。

- (3) 自己を内省し、他者と協働する力を養うために、「リーダーシップ・キャリア形成科目」を配置する。
- (4) マネジメント5分野の専門知識と技能を修得し、課題発見、課題解決に応用する力を育成するために、「専門科目」を配置する。
- (5) 社会変化を敏感に捉え、新たな社会構築に積極的に貢献できるよう、マネジメントに関連する幅広い知識や技能を修得するために、「展開科目」を配置する。
- (6) 目標達成や課題解決に向けて自らの役割を果たす力を育成するために、「演習科目」を配置する。

(学修方法)

- (1) 「専門科目」の主要分野を横断的に履修するとともに、複数分野についての専門性を深め、単一分野の学部では身につけられない学際的な専門知識・技能の修得を目指す。
- (2) 多様な人々と協働する力、自らの考えを表現・発信する力、自ら踏み出す力を育成するために、能動的学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業の到達目標に対応した評価方法を導入し、教育方法の改善及び厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を実施し、総括的評価を行う。

【2019～2023 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

(教育課程編成)

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

(学修方法)

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部学科

(1) 科目分類

経済経営学部のカリキュラムは、学生が「マネジメント力」を身につけるために、学問的知識の修得を重視する科目から社会での学修経験を積む科目まで幅広い領域

の科目で構成される。

- ① 「一般教育科目群」は、視野を広げ、知識への好奇心を高めることを通じて、生涯にわたって自己を支え、健康社会の実現に寄与するための科目で構成される。
- ② 「汎用的技能科目群」は、あらゆる仕事で必要となる力（汎用的技能、ジェネリックスキル）を育成する科目で構成される。
- ③ 「専門教育科目群」は、社会科学を基盤として身につく知識と深い思考力、及び簿記会計や情報(IT)等の社会的ニーズの高いスキルを身につけるための「マネジメント科目」、並びに実社会等での実践的な学修を行う「マネジメント実践科目」で構成される。
- ④ 「自由科目群」は、教職に関する科目及び資格に関する科目、並びにリメディアル科目で構成され、卒業要件単位数には含めない。

(2) 履修の方針

本カリキュラムは、「専門教育科目群」と併せて「一般教育科目群」と「汎用的技能科目群」から科目を段階的に履修し、視野の広さと汎用的技能に支えられた専門的知識・技能を身につけるという方針をとる。

「専門教育科目群」においては、まずは「マネジメント科目」の主要5分野を横的に履修し、その後、複数分野についての専門性を深め、単一分野の学部では身につけられない学際的な専門知識・技能の修得を目指す。

(3) 教育方法・評価方法

- ① カリキュラムマップと連動した授業を実現するために、シラバスの科目概要、ねらい及び到達目標は、学部として組織的に管理する。
- ② 複数クラスによって開講される科目は、授業設計及び教材の作成を担当教員が協働で行うよう努め、授業の質的向上をはかる。
- ③ 「基礎ゼミナール・キャリアデザインⅠ」「専門基礎ゼミナール・キャリアデザインⅡ」「専門ゼミナール・キャリアデザインⅢ」は、それぞれ同一担当者による連続開講とし、キャリア教育も併せて行う。なお、キャリアデザインⅠ～Ⅲの1回の授業時間は45分とする。
- ④ 授業の到達目標に対応した評価方法を導入し、教育方法の改善及び成績評価の厳格化を目指す。

(4) カリキュラムの点検と評価

本カリキュラムについては、質保証の観点にもとづき、履修状況や学修成果等に関して、毎年度点検と評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/management/policy.html> ）

（概要）

【2024 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を身につけている学生の育成を目指し、各学科でアドミッション・ポリシーを定める。

■学科

経済経営学部マネジメント学科では、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献する「マネジメント力」を持った人材を養成するために、以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。なお、入学者選抜においては、多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

・マネジメント学科が求める学生像

（知識・技能）

- (1) 高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語・数学に関して基礎的な知識・技能を身につけている人

（思考力・判断力・表現力）

- (2) 物事を多面的に捉えることができる人
- (3) 自分の考えや意見を述べるができる人

（主体性・多様性・協働性）

- (4) 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人
- (5) 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- (6) マネジメント力を身につけようとする明確な意思を持っている人

【2023 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につ

けている人

- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部学科

健康な地域社会、企業や組織及び自己の形成と発展に寄与し、「マネジメント力」を持った人材を養成するために、以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。なお、入学者選抜においては、多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

経済経営学部が求める学生像

(知識・技能)

- ① 高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語・数学に関して基礎的な知識・技能を身につけている人

(思考力・判断力・表現力)

- ② 自分の考えや意見を述べることができる人
- ③ 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人

(主体性・多様性・協働性)

- ④ 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- ⑤ 本学部でマネジメント力を身につけようとする明確な意思を持っている人

【2021年度・2022年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部学科

健康な地域社会、企業や組織及び自己の形成と発展に寄与し、「マネジメント力」を持った人材を養成するために、以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

(1) 経済経営学部が求める学生像

(知識・技能)

- ① 高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語・数学に関して基礎的な知識・技能を身につけている人

(思考力・判断力・表現力)

- ② 自分の考えや意見を述べることができる人
- ③ 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人

(主体性・多様性・協働性)

- ④ 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- ⑤ 本学部でマネジメント力を身につけようとする明確な意思を持っている人

(2) 評価方法

- ① 調査書の評定値または筆記試験で評価する。
- ② 課題レポート、小論文試験または論述問題で評価する。
- ③ エントリーシート、課題レポート及び面接で評価する。21世紀型スキル育成方式においては、レポート及び面談で評価する。
- ④ 調査書、エントリーシート及び面接で評価する。21世紀型スキルA0育成方式においては、アドベンチャープログラムを通じた自己評価、観察評価及び面談

等を通じて総合的に評価する。

⑤ エントリーシート及び面接で評価する。

(3) 入試形態との関連性

評価方法 選抜区分		AP①	AP②	AP③	AP④	AP⑤
総合型選抜	21 世紀型スキル育成方式	○	○	◎	◎	◎
	スポーツ活動評価方式	○	○	○	○	◎
	探求型学習評価方式	○	◎	◎	○	◎
	専門高校・総合学科生評価方式	○	○	◎	○	◎
学校推薦型 選抜	指定校方式	○	○	◎	○	◎
	公募方式	○	○	◎	○	◎
一般選抜	本学独自方式	◎	○		○	
	大学入学共通テスト利用方式	◎	◎		○	
特別選抜	留学生・外国人選抜	◎			○	◎
	帰国子女選抜			○	○	◎
	社会人選抜			○	○	◎

◎当該入試で特に重点的に評価する項目

○当該入試で評価する項目

【2019 年度・2020 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるように必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部学科

健康な地域社会、企業や組織及び自己の形成と発展に寄与し、「マネジメント力」を持った人材を養成するために、以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

- (1) 経済経営学部が求める学生像
 - ① 高校 3 年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語に関して基礎的な知識・技能を身につけている人
 - ② 自分の考えや意見を述べることができる人
 - ③ 経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人
 - ④ 目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
 - ⑤ 本学部でマネジメント力を身につけようとする明確な意思を持っている人
- (2) 評価方法
 - ① 調査書の評定値または筆記試験で評価する。
 - ② 小論文試験または論述問題で評価する。
 - ③ 調査書、エントリーシート及び面接で評価する。21 世紀型スキル A0 入試においては、ふりかえりシート及び面談で評価する。
 - ④ エントリーシート及び面接で評価する。21 世紀型スキル A0 入試においては、

アドベンチャープログラムを通じた自己評価、観察評価及び面談等を通じて総合的に評価する。

⑤ エントリーシート及び面接で評価する。

(3) 入試形態との関連性

評価方法 入試区分	①	②	③	④	⑤
21 世紀型スキル A0 入試	○		◎	◎	◎
スポーツ推薦入試	○		○	○	◎
指定校推薦入試	○		○	○	◎
一般推薦入試	○	◎	○	○	◎
専門高校・総合学科推薦	○		○	○	◎
一般入試	◎	○			
センター入試	◎				
帰国子女・社会人入試	○	◎	○	○	◎
留学生入試	○		○	○	◎

◎当該入試で特に重点的に評価する項目

○当該入試で評価する項目

学部等名 経済経営学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html)
(概要) ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■教育理念 【経済経営学部】 生涯学び、成長し続けられる人材の養成をととして、誰もが活躍できる社会の構築と発展に寄与する。 【経済学科】 経済学の視点から多様な価値を見いだす力を身につけた人材の養成をととして、持続可能な社会の実現を目指す。 ■人材養成の目的 【経済経営学部】 広い知識と視野を持ち、他者と協働して課題を発見し解決することを通じて、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献できる人材を養成する。 【経済学科】 経済学を中心とした知識と技能を身につけ、現代社会が抱える課題を解決し、新たな価値を創造できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/economics/policy.html> ）

（概要）

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（経済学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。
- （2）経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。
- （4）物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。
- （5）分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）自己を理解し、主体的に行動することができる。
- （7）自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。

(8) チームで協働し、課題を解決することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 経済学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22 単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から			
専門教育科目群	データサイエンス・AI 科目	必修	2 単位	72 単位以上
	経済基幹科目	必修	10 単位	
	経済基幹科目及び 経済専門科目	選択	28 単位以上	
	演習科目	必修	18 単位	
	上記に加え、専門教育科目群から			
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30 単位以上
合 計				124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/economics/policy.html> ）

（概要）

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- （1）全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- （2）現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- （3）主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- （1）授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- （2）ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、各学科でカリキュラム・ポリシーを定める。

■学科

（教育課程編成）

人材養成の目的を達成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに科目間の連携や学修の順序をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリー、履修モデル等で明示する。

- （1）視野を広げ、知識への好奇心を高めるとともに、アカデミック・スキルを育成するために、「一般教育科目群」を配置する。
- （2）自ら情報を収集・分析し、根拠に基づき解決策を提案する力を育成するために、「データサイエンス・AI 科目」を配置する。
- （3）自己を内省し、他者と協働する力を養うために、「リーダーシップ・キャリア

形成科目」を配置する。

(4) 経済学の基礎理論と、理論を実証するための手法を学修するために、「経済基幹科目」を配置する。

(5) 経済の仕組みを学び、経済学の視点から課題を発見し、解決する実践力を養うために、「経済専門科目」を配置する。

(6) 社会の変化に対応できるよう、経済に関連する幅広い知識や技能を修得するために、「展開科目」を配置する。

(7) 目標達成や課題解決に向けて自らの役割を果たす力を育成するために、「演習科目」を配置する。

(学修方法)

(1) 持続可能な社会の実現に向け、経済学分野について基幹科目から専門科目までを段階的に学びつつ、関連する分野についての学修を深めることで専門知識・技能の修得を目指す。

(2) 多様な人々と協働する力、自らの考えを表現・発信する力、自ら踏み出す力を育成するために、能動的学修を促進し、データに基づくプロジェクト学習プログラムを実施する。

(学修成果の評価)

(1) 授業の到達目標に対応した評価方法を導入し、教育方法の改善及び厳格な成績評価を行う。

(2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を実施し、総括的評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/management_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/economics/policy.html> ）

（概要）

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- （2）自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- （3）多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を身につけている学生の育成を目指し、各学科でアドミッション・ポリシーを定める。

■学科

経済経営学部経済学科では、健康な社会及び健全な組織の実現に貢献しようという意思と以下の能力・意欲を持った人を広く受け入れる。なお、入学者選抜においては、多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

・経済学科が求める学生像

（知識・技能）

- （1）高校3年間を通じて幅広い学習を行っており、特に、英語・国語・数学に関して基礎的な知識・技能を身につけている人

（思考力・判断力・表現力）

- （2）物事を多面的に捉えることができる人
- （3）自分の考えや意見を述べるができる人

（主体性・多様性・協働性）

- （4）経験をふりかえり、自分の言葉で表現できる人
- （5）目標を達成するために、他者と協力して行動できる人
- （6）持続可能な社会を実現するために、本学科で学ぶ意思を持っている人

学部等名 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科 教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html)
(概要) 【2021 年度以降国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】 ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■教育理念 【国際コミュニケーション学部】 コミュニケーションをとおして、平和で豊かな多文化共生社会の実現を目指す。 【国際コミュニケーション学科】 地域と世界をつなぐ語学力と国際感覚をもって、グローバル化する社会に貢献する。 ■人材養成の目的 学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として、次のとおり定める。 【国際コミュニケーション学部】 コミュニケーション力をもって、社会の課題解決に取り組み、グローバル化する現代社会に貢献できる人材を養成する。 【国際コミュニケーション学科】 地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。 【2020 年度以前国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】 ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■学部の教育理念 コミュニケーションをとおして、平和で豊かな多文化共生社会の実現を目指す。 ■人材養成の目的 学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として、次のとおり定める。 【国際コミュニケーション学部】 地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。 【国際コミュニケーション学科】 実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を基盤とし、世界の多様な価値観、及び日本そして地域の魅力と強みを理解し、世界と地域をつなぐことのできる語学力

と国際感覚を持ったグローバル人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法）

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/communication/policy.html> ）

（概要）

【2021 年度以降国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与する。

- （1）英語または中国語の実践的な運用能力を身につけている。
- （2）言語の仕組みとその背景の文化について理解している。
- （3）国際情勢とグローバル社会について理解している。
- （4）北陸を中心に、日本の文化・社会について理解している。
- （5）多様な文化的社会的背景を持つ人々ともコミュニケーションを図り、協働する力を身につけている。
- （6）獲得した知識に基づいて自分の意見を論理的に述べることができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たしたうえで、卒業単位 124 単位以上を修得したものと定めている。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
一般教育科目	教養科目	7 単位以上（必修 3 単位含む）
	心理社会科目	
	キャリア科目	4 単位以上（必修 2 単位含む）
専門教育科目	語学科目	40 単位以上（必修 20 単位含む）
	言語理解科目	44 単位以上（必修 2 単位含む）
	文化理解科目	
	国際理解科目	
	専門演習科目	16 単位 ※海外留学A～Dを修得した当該学期中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位取得を免除し、修得した単位は卒業要件修得単位数に算入することができる。
合計 124 単位以上		

【2020 年度以前国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与する。

〈知識・理解〉

- (1) 英語又は中国語の実践的な運用・コミュニケーション能力を身につけ、国際情勢と日本、特に北陸の魅力と強みを理解することができる。
- (2) 獲得した知識を活用することによって、経験したことのない状況においても物事の本質を捉えるための判断基準、すなわち知識の枠組みを身につける。

〈態度・思考〉

- (1) 留学や海外研修、海外インターンシップなどを通して、グローバル社会に飛び出そうとするチャレンジ精神を身につける。

(2) 異文化を尊重し、違いを許容して、よりよい社会を目指して共生しようとする思考を身につける。

〈汎用的能力〉

(1) 留学生との交流やフィールドワークでの協働体験、海外留学や海外研修、海外インターンシップを通じて、多様な文化的社会的背景を持つ人々と共生し、協働できる力を身につける。

〈総合的な学修経験と創造的思考力〉

(1) 課題解決型学習（PBL ; Problem Based Learning）やフィールドワークなどを通して、地域社会のリアルな課題に取り組み、正解のない問題に対しても獲得した知識を活用して考え抜く力を身につける。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たしたうえで、卒業単位 124 単位以上を修得したものと定めている。

国際コミュニケーション学部		国際コミュニケーション学科
専門教育科目	基礎科目	8 単位以上
	語学科目	40 単位以上（必修 20 単位含む）
	言語理解科目	40 単位以上
	日本・国際理解科目	※言語理解科目から 4 単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修 2 単位を除く 4 単位以上修得する。
	専門演習科目	12 単位以上 ※海外留学 A～D を修得した当該学期中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学 A～D を修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位は卒業要件修得単位とする。
		計 100 単位以上
一般教育科目		8 単位以上（必修 4 単位含む）
キャリア科目		4 単位以上（必修 2 単位含む）
合 計		124 単位以上 ※教職に関する科目に開講される「英語科教育法 I～IV」8 単位を上限に含めることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/communication/policy.html> ）

（概要）

【2021 年度以降国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- （1）全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- （2）現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- （3）主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- （1）授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- （2）ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、各学科でカリキュラム・ポリシーを定める。

■学科

- （1）初年次には英語・中国語の2言語を学修し、2年次以降はそのうち1言語を集中的に学ぶことで外国語の実践的な運用能力を段階的に向上させる体系的な語学カリキュラムを導入する。
- （2）言語という観点から異文化への知識を得るための言語理解科目を配置する。
- （3）日本と北陸の文化への理解を深め、国際社会を広く理解するため日本・国際理解科目を配置する。
- （4）大学教育を今後十分に理解できるように、初年次教育（知識活用力、日本語リテラシー、情報リテラシー）を行う。

- (5) 海外経験を重視し、海外研修や留学、海外インターシップを体系的・順次性を踏まえ配置する。
- (6) 社会とのつながりを意識し、自身の学習経験を振り返るためのキャリア科目を配置する。
- (7) 社会人として求められる基礎的な人文科学、社会科学、自然科学分野の教養科目を配置する。

(学修方法)

- (1) 語学教育を含めて、全科目において能動的学修を取り入れる。
- (2) 英語または中国語の実践的な運用能力を高めるため、語学研修や語学留学などのプログラムを提供する。
- (3) 課題解決能力の向上と協働経験のため、地域や国際社会をフィールドにしたプロジェクトなど、教室外学習プログラムを提供する。

(学修成果の評価)

- (1) シラバスに到達目標・評価基準を明示し、成績評価は到達度評価を基本とし、「妥当性」「客観性」「透明性」「公正性」を徹底した厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を必修とし、評価ルーブリックを活用して総括的評価を行う。

【2020 年度以前国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

(教育課程編成)

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

(学修方法)

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

(学修成果の評価)

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

国際コミュニケーション学部では、国際的視野と異文化への理解を涵養し、実践的な語学運用能力・コミュニケーション能力を獲得させ、日本及び外国の文化に対する専門的な知識を修得することにより、地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、語学力を通じて地域と世界をつなぐ人材育成を図るため、次の6点を基本として教育課程を編成する。

- (1) 初年次には英語・中国語二言語を学修し、2年次以降はいずれかの言語を集中的

に学ぶことで実践的な外国語の運用・コミュニケーション能力を段階的に向上させる体系的な教育課程とするとともに、外国語学修を通して異文化への知識と理解を積み上げて学修させる。

- (2) 地域の活性化に寄与する文化・観光及び国際関係の専門知識と理解を積み上げて学修する。さらに領域間の関連性があり、学生の興味関心が深まるよう工夫された教育課程とする。
- (3) 初年次を中心としてリテラシー（知識活用力、日本語リテラシー）を養成する科目を配置するとともに、アクティブラーニングを重点的に導入する。
- (4) 実践的な語学運用能力を高めるため、卒業までに全員が海外留学や海外研修に参加可能な教育課程とする。
- (5) 課題解決能力の向上と協働経験のため、地域や国際社会をフィールドに、各領域が関係するプロジェクト型科目を配置する。
- (6) 社会とのつながりを意識しつつ学修経験を振り返り、将来の目標を立てられるようになるためにキャリア科目を配置するとともに、社会人の素養として求められる基礎的な人文科学、社会科学、自然科学の科目を教養科目として配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/communication/policy.html> ）

（概要）

【2021 年度以降国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- （2）自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- （3）多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を身につけている学生の育成を目指し、各学科でアドミッション・ポリシーを定める。

■学科

本学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。入学者選抜は多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

- （1）英語・中国語など外国語学修に意欲と関心を持っている人
- （2）英語または中国語の基礎的な運用能力を持っている人
- （3）大学の授業を理解できるための日本語リテラシーを持っている人
- （4）海外留学等に積極的に取り組む意欲と関心を持っている人
- （5）多様な文化的社会的背景を持つ人々との協働に積極的に取り組む意欲のある人

【2020 年度以前国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- （2）自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- （3）多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

地域社会及び地域産業のグローバル化に貢献し、世界と地域をつなぐことのできる語学力と国際感覚を持ったグローバル人材の養成を目指し、以下のような資質・能力・

意欲を持った人を広く受け入れる。

・国際コミュニケーション学部が求める学生像

- (1) 大学で学ぶことで、自らが成長し、将来の目標や展望を持ち、主体性を持つ自立した社会人になりたいという意思を持つ人
- (2) 人とのコミュニケーションを大切にし、多様な人々との協働等によるさまざまな学修を通じて、地域の活性化に積極的に貢献したいと考える人
- (3) 英語・中国語など外国語学修及び海外経験等に関心を持っている人
- (4) 基礎的な学習を行っており、大学の授業を理解できるための日本語リテラシーを持つ人
- (5) 基礎的な英語や中国語の外国語運用能力を持つ人

入学者選抜では、大学入試センター試験、個別学力検査、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

入学後のコミュニケーション教育に十分に対応できる資質として、国際的な広い視野と外国語によるコミュニケーション能力を備えていることを重視する。そのため、外国語の基礎的な能力と文系科目（社会、国語等）の考え方や知識が必要であり、高等学校段階においてこれらの教科の履修が望ましい。

学部等名 国際コミュニケーション学部 心理社会学科 教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html)
(概要) ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■教育理念 【国際コミュニケーション学部】 コミュニケーションをとおして、平和で豊かな多文化共生社会の実現を目指す。 【心理社会学科】 人間の心理と行動、社会の諸問題を探究し、健やかな人間社会の構築を目指す。 ■人材養成の目的 学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として、次のとおり定める。 【国際コミュニケーション学部】 コミュニケーション力をもって、社会の課題解決に取り組み、グローバル化する現代社会に貢献できる人材を養成する。 【心理社会学科】 社会全体を俯瞰できる広い視野、人間の心理を深く理解する力とコミュニケーション力を身につけ、「人與人」「人と社会」をつなぎ、健康社会の実現に貢献できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/psychology/policy.html> ）

（概要）

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び本学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（心理学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。
- （2）多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。
- （4）社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

(5) 健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。

(6) 多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たしたうえで、卒業単位 124 単位以上を修得したものと定めている。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科			
総合教育科目	必修科目	4 単位	計 20 単位以上
	選択科目	16 単位以上	
専門教育科目	必修科目	24 単位	計 104 単位以上
	選択科目		
	共通領域及び展開応用科目	58 単位以上	
	現代社会科目	22 単位以上	
合計 124 単位以上			

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/psychology/policy.html> ）

（概要）

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- (1) 全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- (2) 現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- (3) 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- (1) 授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、各学科でカリキュラム・ポリシーを定める。

■学科

（教育課程編成）

- (1) 多文化共生社会の理解を深め、社会全体を俯瞰する広い視野を修得するために、総合教育科目と現代社会科目を配置する。
- (2) 心理学とコミュニケーションの基本的な知識と技能を修得するために、心理学関連の専門教育科目区分を「共通領域」「社会・産業心理学領域」「臨床心理学領域」「教育・発達心理学領域」「認知・神経科学領域」の5領域で編成する。
上級年次で展開する専門分野の知識・技能を学ぶために、初年次に概論科目を配置する。
- (3) 心理学的な視点と研究法に基づいた課題解決能力を養い、生涯を通して学び続

ける姿勢と協働力を身につけるため、「共通領域」を中心とした専門科目から卒業研究に至る体系的な科目を展開する。

(学修方法)

- (1) コミュニケーション能力、課題解決能力、論理的思考力、他者を尊重し協働できる力と主体的な学びの姿勢を養うために、参加型の少人数教育と能動的学修を促進する。
- (2) 人間の心理と行動を解明し、社会のさまざまな課題を多面的に捉える能力を養うために、実験、調査、観察及びデータ解析などの科学的手法を取り入れた双方向型の教育プログラムを提供する。

(学修成果の評価)

- (1) シラバスに到達目標・評価基準を明示し、成績評価は到達度評価を基本とし、「妥当性」「客観性」「透明性」「公正性」を徹底した厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を必修とし、評価ルーブリックを活用して総括的評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/communication_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/psychology/policy.html>)

（概要）

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- （2）自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- （3）多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部

本学部では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を身につけている学生の育成を目指し、各学科でアドミッション・ポリシーを定める。

■学科

本学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。入学者選抜は多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

- （1）大学で学ぶために必要な高等学校卒業相当程度の知識を修得し、特に日本語の的確な理解力や表現力、外国語（英語）の基礎的な運用能力を身につけている人
- （2）人間の心理と行動、コミュニケーションについて興味を持ち、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人
- （3）自己及び他者を尊重し協力して行動できる人

学部等名 医療保健学部 医療技術学科
教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html)
（概要） ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■学部の教育理念 豊かな人間性と確かな医療技術をもって、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献する。 ■人材養成の目的 学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として、次のとおり定める。 【医療保健学部】 医療人としての倫理観、使命感、責任感及び保健医療における専門知識と技術を身につけ、医療・介護予防・健康増進の分野において貢献し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する。 【医療技術学科】 臨床検査学、臨床工学の知識・技術を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応できる医療技術者を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/medical/policy.html>)

（概要）

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている

【2023 年度以降医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）医療技術者としての知識と技能を理解している。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。
- （3）修得した医療技術を安全に実施することができる。

（思考力・判断力・表現力）

- （4）医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- （5）医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
- （7）医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の128単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	11 単位	計 19 単位以上 ・臨床工学コースの場合は「データサイエンス」を修得すること。
	選択科目	8 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	26 単位	計 27 単位以上 ・「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。
	選択科目	1 単位以上	
専門科目	必修科目	31 単位	計 82 単位以上 ・臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から 1 科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を 2 科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む 2 科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を 1 科目以上修得すること。
	選択科目	51 単位以上	
合 計	128 単位以上		

【2022 年度医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）医療技術者としての知識と技能を理解している。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。
- （3）修得した医療技術を安全に実施することができる。

（思考力・判断力・表現力）

- （4）医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- （5）医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
- （7）医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の128単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	11 単位	計 19 単位以上
	選択科目	8 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	26 単位	計 27 単位以上 ・「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。
	選択科目	1 単位以上	
専門科目	必修科目	31 単位	計 82 単位以上 ・臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から1 科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を2 科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む2 科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を1 科目以上修得すること。
	選択科目	51 単位以上	
合 計	128 単位以上		

【2021 年度医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）医療技術者としての知識と技能を理解している。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。
- （3）修得した医療技術を安全に実施することができる。

（思考力・判断力・表現力）

- （4）医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- （5）医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
- （7）医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 130 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目 選択科目	12単位 8単位以上	計20単位以上
専門基礎科目	必修科目	45単位	計45単位
専門科目	必修科目 選択科目	63単位 2単位以上	計65単位以上
合計		130単位以上	

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/medical/policy.html>)

（概要）

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- （1）全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- （2）現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- （3）主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- （1）授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- （2）ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

【2021年度以降医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

（教育課程編成）

医療保健学部医療技術学科の人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに科目間の連携や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

- （1）医療人として幅広い教養を修得させるとともに、コミュニケーション能力を修得するために、「一般教養科目」「専門基礎科目」を配置する。
- （2）医療現場で必要となる実践的な知識と技能を修得するために必要な臨床検査学、臨床工学の基礎的な知識を深めるよう「専門基礎科目」を配置する。
- （3）日々進歩し続ける医療機器、医療技術の現場で、臨床検査学、臨床工学の領域

で修得した知識と技能を安全に実施する医療技術者を養成するために、「専門科目」を配置する。

- (4) 科学的根拠に基づいた問題解決能力を養い、生涯を通して学び続ける姿勢を身につけるため、基礎演習から卒業研究に至る体系的な科目を展開する。

(教育方法)

- (1) カリキュラムマップと連動した授業を実現するために、シラバスの各科目の目的・概要・到達目標は学部として組織的に管理し、質的向上をはかる。
- (2) 全科目において、主体的・対話的で深い学びを実現するよう能動的学修を取り入れる。

(学修成果の評価)

- (1) シラバスに到達目標・評価基準を明示し、到達目標に対応した評価方法により、妥当性・信頼性のある厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を実施し、総括的評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/medical/policy.html>)

（概要）

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- (1) 専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- (2) 自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- (3) 多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

【2021 年度以降医療保健学部医療技術学科入学生用】

■学部学科

医療保健学部医療技術学科では、医療人としての倫理観、使命感、責任感及び臨床検査学、臨床工学の知識・技能を身につけ、日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応し、チーム医療に積極的に関わることでできる医療技術者の養成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れる。

・医療保健学部が求める学生像

- (1) 医療の知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している人
- (2) 人を思いやる心と協調性を持って取り組むことができる人
- (3) 物事を論理的かつ多面的に考察することができる人
- (4) 何事にも積極的に取り組むことができる人
- (5) 医療・保健に対する意欲や関心が高く、この分野に貢献したいという熱意のある人
- (6) 自らの考えを明確に伝えることができる人

入学者選抜では、大学入学共通テスト、個別学力検査、調査書、面接及び小論文などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

医療技術学科における基礎となる理論や科学的考察には、理系科目（数学、物理、化学、生物）の考え方や知識が、また、論理的文章力及びコミュニケーション力には文系科目（国語、英語）の知識が必要であり、高等学校段階においてこれらの教科の履修が望ましい。

学部等名	医療保健学部	理学療法学科
教育研究上の目的（公表方法： 大学案内 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook 学生便覧 大学事務局に問合せること 履修の手引 https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf 大学ホームページ https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html		
（概要） ■建学の精神・教育理念 『自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成』 ■大学の使命・目的 『健康社会の実現』 ■学部の教育理念 豊かな人間性と確かな医療技術をもって、地域社会の保健・医療・福祉の向上に貢献する。 ■人材養成の目的 学部の教育理念に基づき、教育・研究上の目的を「人材養成の目的」として、次のとおり定める。 【医療保健学部】 医療人としての倫理観、使命感、責任感及び保健医療における専門知識と技術を身につけ、医療・介護予防・健康増進の分野において貢献し、チーム医療に積極的に関わることのできる医療技術者を養成する。 【理学療法学科】 疾病の治療・予防、介護予防・障害予防、人々の健康維持・増進に理学療法の領域から寄与し、科学的根拠に基づくリハビリテーションが実践できる理学療法士を養成する。		

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/physical_therapy/policy.html

（概要）

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（理学療法学）の学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）理学療法士としての基本的な知識と技術を身につけている。
- （2）医療人としての幅広い教養を身につけている。
- （3）科学的根拠に基づくリハビリテーションを実践することができる。

（思考力・判断力・表現力）

- （4）健康・疾病・障害・予防の諸問題を理学療法の視点と研究法により探求し、課題解決に取り組む能力を身につけている。
- （5）チーム医療及び地域の保健医療に参画するコミュニケーション力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （6）リハビリテーションの発展に貢献する探究心を持ち、さらなる知識や技術を生涯に渡り積極的に学び続ける態度を身につけている。
- （7）生命倫理や人の尊厳、多職種連携を理解し、他者を思いやり協働できる力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の128単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部　理学療法学科			
一般教養科目	必修科目	7 単位以上	14 単位以上
	選択科目	7 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	41 単位	41 単位
専門科目	必修科目	63 単位	73 単位以上
	選択科目	「予防理学療法学」または、「先進技術と理学療法学」からどちらか1科目 2 単位選択必修 計 10 単位以上	
合計　128 単位以上			

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/departement/medical_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） https://www.hokuriku-u.ac.jp/departement/physical_therapy/policy.html

（概要）

■大学全体

（教育課程編成）

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる一般教育科目、専門分野を体系的に学ぶ専門教育科目、その他必要となる科目を設置し、順次性のある体系的な教育課程を編成する。授業は、双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を適切に組み合わせて行う。

なお、上級年次で展開する専門分野の知識・技能などを学ぶために、初年次では、設定した目標に向かって、主体的に行動できる習慣と自己管理能力を身につけられる教育を行う。

学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

（学修方法）

- （1）全科目で、主体的・対話的で深い学びが実現されるように、能動的学修を取り入れる。
- （2）現実社会で活用できる知識・技能を修得し、社会の一員としての役割を自覚するために、地域・社会・海外等において、教室外学修プログラムを提供する。
- （3）主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進する。

（学修成果の評価）

- （1）授業科目のシラバスに評価基準を具体的かつ多面的に明示し、学生の成長を促進するための厳格な成績評価を行う。
- （2）ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、学修到達度調査や卒業論文、卒業研究の成果物等によって評価する。

■学部学科

（教育課程編成）

医療保健学部理学療法学科の人材養成の目的を達成するために以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに科目間の連携や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。

- （1）医療人としての幅広い教養と基礎医学的知識を修得させるとともに、保健医療福祉とリハビリテーションの理念を学ぶために、「一般教養科目」「専門基礎科目」を配置する。【DP との関係性：DP1、DP2、DP7】
- （2）理学療法の基本的な知識と技術並びに科学的根拠に基づくリハビリテーションの実践力を修得するために、「専門科目」を配置する。【DP との関係性：DP1、DP3】
- （3）理学療法の視点と研究法に基づいた課題解決能力を養い、生涯を通して学び続ける姿勢やコミュニケーション力と協働力を身につけるために、演習科目、実習科目、研

究法、卒業研究に至る体系的な科目を展開する。【DP との関係性：DP4、DP5、DP6、DP7】

- (4) 理学療法の実用化や変化に対応できる能力を修得するために、理学療法関連領域の実用科目を配置する。【DP との関係性：DP6】

(学修方法)

- (1) 他者を尊重し協働できる力と主体的な学びの姿勢を養うために、協働学習と能動的学修を促進する。
- (2) 科学的根拠に基づいたリハビリテーションが実践できる能力を養うために、適切な実験・実習環境で科学的手法を取り入れた双方向型の教育プログラムを実施し、学外の医療施設において参加型の臨床実習を提供する。

(学修成果の評価)

- (1) シラバスに到達目標・評価基準を明示し、成績評価は到達度評価を基本とし、妥当性・客観性・信頼性のある厳格な成績評価を行う。
- (2) ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を確認するために、卒業研究を実施し、総括的評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

大学案内 大学ホームページ <https://www.hokuriku-u.ac.jp/ebook/guidebook>

学生便覧 大学事務局に問合せること

履修の手引

https://www.hokuriku-u.ac.jp/doc/department/medical_guidance2025.pdf

大学ホームページ

（大学全体） <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/outline/policy.html>

（学科） https://www.hokuriku-u.ac.jp/department/physical_therapy/policy.html

（概要）

■大学全体

本学では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を総合的に身につけている学生の育成を目指し、以下のような資質・能力・意欲を持った人を広く受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行う。

- （1）専攻する学位プログラムの教育内容が理解できるために必要な基礎学力を身につけている人
- （2）自らの考えを順序立てて伝えることができる人
- （3）多様な文化・価値観を持つ人々に対して理解と共感を示し、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲のある人

■学部学科

医療保健学部理学療法学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために、以下の能力、目的意識、意欲を持った人を広く受け入れる。入学者選抜は多様な選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

- （1）医療の知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している人（AP1）
- （2）リハビリテーションについて興味を持ち、健康社会の実現に貢献したいという意欲がある人（AP2）
- （3）自己及び他者を尊重し協力して行動できる人（AP3）

理学療法学科における基礎となる理論や科学的考察には、理系科目（数学、物理、化学、生物）の考え方や知識が、また、論理的文章力及びコミュニケーション力には文系科目（国語、英語）の知識が必要であり、高等学校段階においてこれらの教科の履修が望ましい。

②教育研究上の基本組織に関すること

<https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
薬学部	—	21人	13人	5人	2人	1人	42人
経済経営学部	—	10人	6人	3人	4人	0人	23人
国際コミュニケーション学部	—	9人	4人	8人	1人	0人	22人
医療保健学部	—	11人	9人	6人	4人	2人	32人
国際交流センター・その他	—	4人	1人	9人	2人	0人	16人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
			97人				97人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）			公表方法： https://gyoseki.acoffice.jp/hruh/KgApp/				

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	60人	83人	138%	610人	427人	70%	人	人
経済経営学部	250人	186人	74%	1,150人	951人	82%	20人	125人
国際コミュニケーション学部	120人	92人	76%	555人	475人	85%	10人	65人
医療保健学部	120人	120人	100%	430人	407人	94%	人	人
合計	550人	481人	87%	2,745人	2,260人	82%	30人	190人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	73人 (100%)	0人 (0%)	56人 (77%)	17人 (23%)
経済経営学部	272人 (100%)	16人 (6%)	218人 (80%)	38人 (14%)
国際コミュニケーション学部	125人 (100%)	14人 (11%)	90人 (72%)	21人 (17%)
医療保健学部	55人 (100%)	3人 (5%)	46人 (84%)	6人 (11%)
合計	525人	33人	410人	82人

	(100%)	(6%)	(78%)	(16%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全学部シラバスを作成し、授業科目・授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する項目を記載し、大学ホームページで公表している。また、大学全体の学事日程 (University Calendar) を作成し、配布及び大学ホームページで公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) □薬学部 【2024 年度以降薬学部入学生用】 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP） ■大学全体 本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。 (知識・技能) (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。
--

る。

■学部

本学薬学部では、臨床現場で実践的能力を発揮するとともに、倫理観、使命感、責任感を兼ね備えた薬剤師を輩出することを責務とする。このような人材を育成するために、以下の能力(知識・技能・態度)を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士(薬学)の学位を授与する。

(1) プロフェッショナリズム

薬学・医療と社会領域の理解に基づき、生命・医療に係る倫理観、使命感、責任感をもって、健康社会の実現に向けて最善を尽くす信念と態度で行動できる。

(2) コミュニケーション能力

患者・生活者、他職種、同僚等との対話を通して、相手の心理、立場、環境を理解するとともに、自分の考えや感情を適切に伝えるコミュニケーション能力を有し、相手と信頼関係を構築して積極的に協力できる。

(3) 薬学専門知識の活用

・薬学専門知識の理解に基づき、その知識・技術・態度を統合して領域横断的に活用できる。

・情報リテラシーの理解に基づき、情報・科学技術を薬学各領域において有効に活用できる。

(4) 薬学・医療における科学的探究能力

薬学・医療における課題を科学的に探究し、論理的思考に基づいて解決に向けて取り組むことができる。

(5) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

生涯にわたり自己研鑽するとともに、後進の育成及び他者と共に学び続ける必要性を理解し、意欲を持って行動できる。

(6) 医療・社会における実践的能力

・薬学的管理の流れを把握し、医薬品の性質・作用機序を理解し、法的根拠に基づいた医薬品の供給・管理、安全で適正な調剤業務を遂行できる。

・患者・生活者の背景を適切に収集し、根拠に基づいて対応できる。

・医薬品に関する医療過誤防止において、医療安全に係る対策を提案できる。

・患者・生活者に対する全人的な視点に立ち、多職種と協働して最適な薬物療法を提案できる。

・患者・生活者の健康維持

・増進に向けて、地域医療・地域保健に参画する。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の188単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 11.5単位	計16.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	120単位 34単位	計154単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 7.5単位以上	計17.5単位以上
合計		188単位以上	

【2023 年度薬学部入学生用】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学薬学部では、臨床現場で実践的能力を発揮するとともに、倫理観、使命感、責任感を兼ね備えた薬剤師を輩出することを責務とする。こうした人材を育成するために、以下の能力（知識・技能・態度）を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

- （1）医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。
- （2）医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。
- （3）薬の専門家として必要な科学力を身につけている。
- （4）患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。
- （5）薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的能力とコミュニケーション能力を有している。
- （6）薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。
- （7）国民の健康で安全な生活の確保に資するために、論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。
- （8）薬学・医療の進歩に対応するために、医療の担い手として生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに、次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の190単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科

総合教養教育科目

薬学準備教育、実習系科目

必修科目

5単位

12.5単位

計17.5単位

薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	113.5単位 40単位	計153.5単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 9単位以上	計19単位以上
合計		190単位以上	

【2019年度～2022年度薬学部入学生用】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- （1）健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- （2）専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- （3）知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- （4）自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- （5）多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- （6）自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

人材養成の目的に基づき、以下の能力（知識・技能・態度）を身につけ、本学部の所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

- （1）医療や人の健康に携わる専門家として幅広い教養を身につけている。
- （2）医療人としての自覚を持ち、倫理観、使命感、責任感を有している。
- （3）薬の専門家として必要な科学力を身につけている。
- （4）患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として最善を尽くす信念と態度を有している。
- （5）薬剤師として、チーム医療及び地域の保健・医療に参画するために必要な実践的な能力とコミュニケーション能力を有している。
- （6）薬剤師として、個々の患者に適した安全で有効な薬物療法を実践する能力を有している。
- （7）論理的思考に基づく問題発見・解決能力を有している。
- （8）薬学・医療の進歩に対応するために、生涯にわたり自己研鑽し続けるとともに次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有している。

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の190単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 12.5単位	計17.5単位
薬学専門教育科目 実習系科目	必修科目	113.5単位 40単位	計153.5単位
総合教養教育科目 薬学専門教育科目	選択科目	10単位以上 9単位以上	計19単位以上
合計		190単位以上	

【2018年度以前薬学部入学生用】

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

■大学全体

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた者に卒業認定し、学位を授与する。

- (1) 修得した知識や知見により、自らが課題を発見し解決する力
- (2) 社会で求められるコミュニケーション力と適格な判断力
- (3) 自らを律し、他者と協調して行動でき、社会の発展に寄与できる力

■学部

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（薬学）の学位を授与する。

- (1) 医療人としての倫理観を身につけていること
- (2) 医療の一翼を担う人材として、確かな知識・技能、コミュニケーション力を身につけていること
- (3) 諸問題の解決に向けて、修得した知識・技能等を実践的に活用できること

■卒業要件

6年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の189.5単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

薬学部 薬学科			
総合教養教育科目（語学・運動） 薬学準備教育、実習系科目	必修科目	5単位 10単位	計15単位
薬学専門教育科目 実習系科目 アドバンス教育専門コース演習科目	必修科目	113単位 44.5単位 5単位	計162.5単位
総合教養教育科目・1～3年次 薬学専門教育科目 4年次薬学専門教育科目	選択科目	8単位以上 4単位以上	計12単位以上
合計		189.5単位以上	

【2024 年度以降経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を備えている。
- (2) マネジメント 5 分野の専門知識と技能を備えている。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 情報を収集・分析し、課題を発見する力を身につけている。
- (4) 課題解決に至る道筋を論理的に考える力を身につけている。
- (5) 課題の背景、解決策及びその効果を正しく相手に伝える力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (6) 自分の考えや判断に基づいて行動し、その結果に責任を持つことができる。
- (7) 多様な個の存在を認め、尊重することができる。
- (8) 他者と協働し、課題を解決することができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 124 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 マネジメント学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位	22 単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2 単位	
		選択	2 単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から		17 単位以上	
専門教育科目群	データサイエンス・AI 科目	必修	2 単位	72 単位以上
	専門科目	必修	6 単位	
		選択	32 単位以上	
	演習科目	必修	18 単位	
	上記に加え、専門教育科目群から		14 単位以上	
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30 単位以上
合 計				124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

【2019～2023 年度経済経営学部マネジメント学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（マネジメント学）の学位を授与する。

(1) 知識・技能

- ① 社会の一員として必要となる幅広い知識と技能を身につけている。

- ② マネジメント関連分野の専門知識と技能を身につけている。
- (2) 思考力・判断力・表現力
- ③ 課題や解決策を見だし、論理的に表現する力を身につけている。
- ④ 経験から学び、成長する力を身につけている。
- (3) 主体性・多様性・協働性
- ⑤ 自ら進んで他者と協働し、課題を解決する力を身につけている。
- ⑥ 多様性や国際性を理解し、行動する力を身につけている。

■卒業判定

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 マネジメント学科			
一般教育科目群	教養科目	必修	1 単位
		選択	9 単位以上
	外国語科目 (※1)	必修	4 単位
		選択	6 単位以上
汎用的技能科目群	リテラシー科目	必修	2 単位
		選択	10 単位以上
	キャリア科目		6 単位
専門教育科目群	演習科目 (※2)	必修	22 単位
	マネジメント科目及び マネジメント実践科目	必修	8 単位
		選択 (※3)	40 単位以上
自由科目群を除く全ての科目群			16 単位以上
合 計			124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

※2 卒業論文を作成しない場合、卒業研究の単位は6単位とし、演習科目における卒業に必要な単位数は18単位とする。

※3 卒業論文を作成しない場合、マネジメント科目及びマネジメント実践科目（選択）における卒業に必要な単位数は44単位とする。

※4 自由科目群科目は、卒業要件単位に含まない。

□経済経営学部 経済学科

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

(1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。 (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。 (思考力・判断力・表現力) (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。 (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。 (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。
■学部 本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って、各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。
■学科 人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（経済学）の学位を授与する。 (知識・技能) (1) 持続可能な社会を実現する一員として必要な幅広い知識と技能を備えている。 (2) 経済学を中心とした専門知識と技能を備えている。 (思考力・判断力・表現力) (3) 新たな視点で課題を見だし、データに基づき分析する力を身につけている。 (4) 物事を多角的に捉え、課題を解決する力を身につけている。 (5) 分析、発見した知見を文章、プレゼンテーションなど、多様なメディアで表現する力を身につけている。 (主体性・多様性・協働性) (6) 自己を理解し、主体的に行動することができる。 (7) 自分と異なる他者を理解し、尊重することができる。 (8) チームで協働し、課題を解決することができる。
■卒業要件 4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。 学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

経済経営学部 経済学科				
一般教育科目群	教養科目	必修	1単位	22単位以上
	外国語科目（※1）	必修	2単位	
		選択	2単位以上	
	上記に加え、一般教育科目群から		17単位以上	
専門教育科目群	データサイエンス・AI科目	必修	2単位	72単位以上
	経済基幹科目	必修	10単位	

	経済基幹科目及び 経済専門科目	選択	28 単位以上	
	演習科目	必修	18 単位	
	上記に加え、専門教育科目群から		14 単位以上	
上記に加え、一般教育科目群又は専門教育科目群から				30 単位以上
合 計				124 単位以上

※1 外国人留学生の修得した留学生特例科目の単位は、必修科目を含む外国語科目の単位とすることができる。

□国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

【2021 年度以降国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

(1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。

(2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

(3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。

(4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与する。

(1) 英語または中国語の実践的な運用能力を身につけている。

(2) 言語の仕組みとその背景の文化について理解している。

(3) 国際情勢とグローバル社会について理解している。

(4) 北陸を中心に、日本の文化・社会について理解している。

(5) 多様な文化的社会的背景を持つ人々ともコミュニケーションを図り、協働する力を身につけている。

(6) 獲得した知識に基づいて自分の意見を論理的に述べることができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 124

単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
一般教育科目	教養科目	7 単位以上（必修 3 単位含む）
	心理社会科目	
	キャリア科目	
専門教育科目	語学科目	40 単位以上（必修 20 単位含む）
	言語理解科目	44 単位以上（必修 2 単位含む）
	文化理解科目	
	国際理解科目	
	専門演習科目	16 単位 ※海外留学 A～D を修得した当該学期中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学 A～D を修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位取得を免除し、修得した単位は卒業要件修得単位数に算入することができる。
合計 124 単位以上		

【2020 年度以前国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

（思考力・判断力・表現力）

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

（主体性・多様性・協働性）

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（文学）の学位を授与する。

〈知識・理解〉

- (1) 英語又は中国語の実践的な運用・コミュニケーション能力を身につけ、国際情勢と日本、特に北陸の魅力と強みを理解することができる。
- (2) 獲得した知識を活用することによって、経験したことのない状況においても物事の本質を捉えるための判断基準、すなわち知識の枠組みを身につける。

〈態度・思考〉

- (1) 留学や海外研修、海外インターンシップなどを通して、グローバル社会に飛び出そうとするチャレンジ精神を身につける。
- (2) 異文化を尊重し、違いを許容して、よりよい社会を目指して共生しようとする思考を身につける。

〈汎用的能力〉

- (1) 留学生との交流やフィールドワークでの協働体験、海外留学や海外研修、海外インターンシップを通じて、多様な文化的社会的背景を持つ人々と共生し、協働できる力を身につける。

〈総合的な学修経験と創造的思考力〉

- (1) 課題解決型学習（PBL ; Problem Based Learning）やフィールドワークなどを通して、地域社会のリアルな課題に取り組み、正解のない問題に対しても獲得した知識を活用して考え抜く力を身につける。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科		
専門教育科目	基礎科目	8単位以上
	語学科目	40単位以上（必修20単位含む）
	言語理解科目	40単位以上 ※言語理解科目から4単位以上かつ、日本・国際理解科目から必修2単位を除く4単位以上修得する。
	日本・国際理解科目	
	専門演習科目	12単位以上 ※海外留学A～Dを修得した当該学期中の専門演習科目の単位修得は免除する。
	海外留学科目	※海外留学A～Dを修得した場合は当該学期中の専門演習科目の単位修得を免除し、修得した単位は卒業要件修得単位とする。
計		100 単位以上
一般教育科目		8単位以上（必修4単位含む）
キャリア科目		4単位以上（必修2単位含む）
合 計		124 単位以上 ※教職に関する科目に開講される「英語科教育法Ⅰ～Ⅳ」8単位を上限に含めることができる。

□国際コミュニケーション学部 心理社会学科

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

（知識・技能）

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。

(2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

(3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。

(4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

本学部及び各学科の人材養成の目的に沿って各学科で示されたディプロマ・ポリシーの要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

■学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（心理学）の学位を授与する。

(知識・技能)

(1) 人間の心理、コミュニケーションに関する基本的な知識と技能を身につけている。

(2) 多文化共生社会への理解を深め、社会全体を俯瞰できる広い視野を身につけている。

(思考力・判断力・表現力)

(3) 社会と人間に関する事象を、心理学的視点から分析し、複眼的に理解する力を身につけている。

(4) 社会の諸問題を探究し、心理学的な視点と研究法により、課題解決に取り組む能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 健康社会の実現に積極的に貢献する意欲と行動力を身につけている。

(6) 多様な価値観や立場を持つ他者を思いやり、協働できる力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の124単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

国際コミュニケーション学部 心理社会学科			
総合教育科目	必修科目	4 単位	計 20 単位以上
	選択科目	16 単位以上	
専門教育科目	必修科目	24 単位	計 104 単位以上
	選択科目		
	共通領域及び展開応用科目	58 単位以上	
	現代社会科目	22 単位以上	
合計 124 単位以上			

□医療保健学部 医療技術学科

【2023 年度以降医療保健学部医療技術学科入学生】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。
- (2) 医療人としての幅広い教養を身につけている。
- (3) 修得した医療技術を安全に実施することができる。

(思考力・判断力・表現力)

- (4) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- (5) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

(主体性・多様性・協働性)

- (6) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
- (7) 医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4 年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 128 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	11 単位	計 19 単位以上 ・臨床工学コースの場合は「データサイエンス」を修得すること。
	選択科目	8 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	26 単位	計 27 単位以上 ・「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。
	選択科目	1 単位以上	
専門科目	必修科目	31 単位	計 82 単位以上 ・臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から 1 科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を 2 科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む 2 科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を 1 科目以上修得すること。
	選択科目	51 単位以上	
合 計	128 単位以上		

【2022 年度医療保健学部医療技術学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。
- (6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（医療技術学）の学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。
- (2) 医療人としての幅広い教養を身につけている。
- (3) 修得した医療技術を安全に実施することができる。

(思考力・判断力・表現力)

- (4) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- (5) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

(主体性・多様性・協働性)

(6) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。

(7) 医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の128単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目	11 単位	計 19 単位以上
	選択科目	8 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	26 単位	計 27 単位以上 ・「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。
	選択科目	1 単位以上	
専門科目	必修科目	31 単位	計 82 単位以上 ・臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から1科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を2科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む2科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を1科目以上修得すること。
	選択科目	51 単位以上	
合 計	128 単位以上		

【2021 年度医療保健学部医療技術学科入学生用】

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

(1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。

(2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

(3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。

(4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

(5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士(医

療技術学)の学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 医療技術者としての知識と技能を理解している。
- (2) 医療人としての幅広い教養を身につけている。
- (3) 修得した医療技術を安全に実施することができる。

(思考力・判断力・表現力)

- (4) 医療技術者として、個々の事例に対して的確に判断ができる。
- (5) 医療チームの一員としてコミュニケーション力が発揮できる。

(主体性・多様性・協働性)

- (6) 日々進歩し続ける医療機器、医療技術の変化に対応して、さらなる知識や技術を積極的に吸収することができる。
- (7) 医療技術者としての倫理観、使命感、責任感を持ち、他者を思いやり協調して行動することができる。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位 130 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 医療技術学科			
一般教養科目	必修科目 選択科目	12単位 8単位以上	計20単位以上
専門基礎科目	必修科目	45単位	計45単位
専門科目	必修科目 選択科目	63単位 2単位以上	計65単位以上
合計		130単位以上	

□医療保健学部 理学療法学科

■大学全体

本学は、「自然を愛し 生命を尊び 真理を究める人間の形成」を建学の精神・教育理念とし、大学の使命である「健康社会の実現」のために、グローバルな視点を持ちつつ地域に貢献する人材を育成することを目的としている。本学の各学位プログラムの課程を修了し、以下の資質・能力を備えた者に学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 健康社会の実現のため、社会の一員としての使命感、責任感、倫理観を持ち、幅広い教養を身につけている。
- (2) 専攻する学位プログラムにおける基本的な知識・技能を修得し、現実社会の中で適切に活用できる。

(思考力・判断力・表現力)

- (3) 知識・技能や他者の意見に基づき、自らの考えを組み立て、効果的なコミュニケーションを通して表現・伝達できる能力を身につけている。
- (4) 自分のおかれている状況から課題を発見・分析し、解決方法について客観的・多面的に考察できる能力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (5) 多様な文化・価値観を持つ他者に対して理解と共感を示し、ともに目標を達成しようとする協働力を身につけている。

(6) 自らを律し、主体的に考え、積極的に行動しようとする態度を身につけている。

■学部学科

人材養成の目的に沿って、以下の要件を満たし、所定の単位を修得した者に、学士（理学療法学）の学位を授与する。

(知識・技能)

- (1) 理学療法士としての基本的な知識と技術を身につけている。
- (2) 医療人としての幅広い教養を身につけている。
- (3) 科学的根拠に基づくリハビリテーションを実践することができる。

(思考力・判断力・表現力)

- (4) 健康・疾病・障害・予防の諸問題を理学療法の視点と研究法により探求し、課題解決に取り組む能力を身につけている。
- (5) チーム医療及び地域の保健医療に参画するコミュニケーション力を身につけている。

(主体性・多様性・協働性)

- (6) リハビリテーションの発展に貢献する探究心を持ち、さらなる知識や技術を生涯に渡り積極的に学び続ける態度を身につけている。
- (7) 生命倫理や人の尊厳、多職種連携を理解し、他者を思いやり協働できる力を身につけている。

■卒業要件

4年間以上在籍し、各科目区分における必要単位数を満たした上で、卒業単位の 128 単位以上を修得したものと定めている。

学部教授会は、各科目区分における必要単位数を確認した上で、卒業判定案を策定する。学長は、教授会策定の卒業判定案を聞いて、卒業を決定することとしている。

医療保健学部 理学療法学科			
一般教養科目	必修科目	7 単位以上	14 単位以上
	選択科目	7 単位以上	
専門基礎科目	必修科目	41 単位	41 単位
専門科目	必修科目	63 単位	73 単位以上
	選択科目	「予防理学療法学」または、「先進技術と理学療法学」からどちらか 1 科目 2 単位選択必修 計 10 単位以上	
合計 128 単位以上			

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科 (2024 年度 以降入学生)	188 単位	有	1・2 年次生 : 49 単位 3 年次生 : 44 単位 4・5・6 年次生 : 40 単位
	薬学科 (2019～ 2023 年度入学生)	190 単位	有	1・2 年次生 : 48 単位 3 年次生 : 44 単位 4・5・6 年次生 : 40 単位
	薬学科 (2015～ 2018 年度入学生)	189.5 単位	有	40 単位
経済経営学部	マネジメント学科	124 単位以上	有	1～3 年次生 : 各学期 22 単位 4 年次生 : 各学期 26 単位
	経済学科	124 単位以上	有	1～3 年次生 : 各学期 22 単位 4 年次生 : 各学期 26 単位
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科	124 単位以上	有	42 単位
	心理社会学科	124 単位以上	有	42 単位
医療保健学部	医療技術学科 (2022 年度以降 入学生)	128 単位以上	有	46 単位
	医療技術学科 (2021 年度以前入 学生)	130 単位以上	有	48 単位
	理学療法学科	128 単位以上	有	48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科 (2025 年入学)	1,950,000 円	200,000 円		教育充実費
	薬学科 (2017 年~2024 年入学)	1,450,000 円		500,000 円	
	薬学科 (2016 年以前入学)	1,700,000 円		600,000 円	
経済経営学部	マネジメント学科 (2025 年入学)	1,020,000 円	200,000 円		
	マネジメント学科 (2024 年入学)	700,000 円		300,000 円	
	マネジメント学科 (2023 年以前入学)	650,000 円			
	経済学科 (2025 年入学)	1,020,000 円	200,000 円		
	経済学科 (2024 年入学)	700,000 円		300,000 円	
国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学科 (2025 年入学)	1,120,000 円	200,000 円		
	国際コミュニケーション学科 (2024 年以前入学)	750,000 円		350,000 円	
	心理社会学科 (2025 年入学)	1,100,000 円	200,000 円		
	心理社会学科 (2024 年以前入学)	750,000 円		350,000 円	
医療保健学部	医療技術学科 (2025 年入学)	1,500,000 円	200,000 円		
	医療技術学科 (2024 年以前入学)	1,100,000 円		400,000 円	
	理学療法学科 (2025 年入学)	1,500,000 円	200,000 円		
	理学療法学科 (2024 年以前入学)	1,100,000 円		400,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 障害があるなどの理由により、修学上の配慮が必要な学生については相談窓口を設け、配慮申請に基づき、支援内容を決定している。これらの学生の情報は原則として月 1 回、関係教職員で学生情報交換会を開催し、情報を共有し、対応の検討を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・薬学部では、1 年次から早期体験学習として医療施設（病院、調剤薬局、ドラッグストア）での見学実習や、各分野で活躍する卒業生・医療関係者を招いて講演会を実施し、早い段階から、職業意識や薬剤師を志す目的意識の醸成を行っている。4 年次前期から就職ガイダンスを随時実施し、就職活動開始時期までに必要な項目について指導を行う。併せて進路支援委員による個別指導や、就職担当職員による進路相談等を適宜行っている。その他にも、学生に就職活動の場として学内で個別企業説明会を年

間を通して実施している。また、5年次生を対象とした業界仕事研究セミナーを、対面で実施した。 ・経済経営学部では、キャリア科目として、1年次に「キャリアデザインⅠ」、2年次に「キャリアデザインⅡ」を設置している。3年次前期にインターンシップ等の取組みを行い、3年次からの本格的な進路支援ガイダンス等に連動している。 ・国際コミュニケーション学部では、1年次後期に「PBL入門」、2年次に「コミュニケーション技法Ⅰ」、「体験学習」を開講し、3年次に「現代社会と職業」、「職業理解とインターンシップ」、「コミュニケーション技法Ⅱ」を設置し、系統的なキャリア教育をしている。経済経営学部同様に3年次からの本格的な進路支援ガイダンス等を実施している。 ・医療保健学部では、1年次の「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」において、臨床検査技師、臨床工学士、理学療法士の仕事と大学での学修の繋がり等をグループワークで学び、医療技術者として必要な能力の基本を身につける。進路支援ガイダンス等については、3年次後期から実施される。 ・また、3学部(経済経営学部・国際コミュニケーション学部・医療保健学部)ともに進路支援委員と担任、進路支援課職員との教職協働で学生の支援を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室では、「学校保健安全法」による年1回の健康診断の他、健康相談・保健指導、応急処置を行っている。また、両キャンパスにキャンパス相談室を設置し、臨床心理士・公認心理師の資格を有するカウンセラーが対面・電話・メール・オンラインでのカウンセリングを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.hokuriku-u.ac.jp/about/disclosure/education.html
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F117310105488
学校名 (〇〇大学 等)	北陸大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人北陸大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		184人（ 0）人	180人（ 0）人	193人（ 0）人
内 訳	第Ⅰ区分	101人	107人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	56人	46人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	16人	19人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	11人	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				195人（ 0）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	13人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	29人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	29人	人	人
計	47人	人	人
(備考)			
4.における「警告」の判定は総合判定の「警告」の人数をカウントしています。「今回判定」で2回目の「警告」となり、「廃止」となった人数は含まれておりません。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。